

第5次川島町総合振興計画策定及び
地方創生のための町民アンケート

報告書

平成27年10月

川 島 町

目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果のまとめと考察	3
1	住環境やまちづくりに関する意識	3
2	結婚・出産・子育てに関する意識	7
3	就業（しごと）に関する意識	10
3	調査結果	12
1	ご本人（あなた）について	12
2	川島町のことについて	16
3	就業について（社会人の方）	43
4	現在の居住状況について（18歳～49歳の方）	45
5	結婚・出産・子育てについて（既婚者の方）	47
6	卒業後の進路について（学生の方）	54
7	結婚について（独身の方）	56

1 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、まちづくりの指針となる、「第5次総合振興計画後期基本計画」と、人口減少問題に対応し、地方創生を進めるための「川島町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり基礎資料とするために行うものである。

(2) 調査の概要

調査対象	町内在住の18~49歳の方 1,000人 町内在住の50歳以上の方 1,000人 計2,000人
調査期間	平成27年7月1日～平成27年7月17日
調査方法	郵送配付・回収
配付数	2,000票
回答数(回答率)	18~49歳 279票(27.9%) 50歳以上 526票(52.6%) 合計 805票(40.3%)

(3) 報告書の見方

- 「調査結果」の図表は、原則、回答者の構成比(百分率)で示している。
- 「n」は「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 百分比による集計では、回答者数(該当質問においては該当者数)を100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記している。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 設問の中には前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなる場合がある。
- 図表の「0.0」は、四捨五入の結果または回答者が皆無であることを示している。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中では省略した表現を用いる場合がある。

(4) 回答者属性別クロス集計について

- 設問の内容に応じ、特徴的な傾向がみられる属性別クロス集計結果を掲載している。
- クロス集計表の場合、縦軸の「無回答」は表示していないため、合計と合致しない場合がある。
- クロス集計で母数が極端に少数の構成比(百分率)は統計的誤差が大きい可能性があり、構成比(百分率)の取扱いには注意が必要である。

(5) 自由意見について

- 調査に設けた自由意見及び選択肢に付属する自由記入欄の記述については、別冊の「その他・自由意見」報告書としてまとめている。

(自由意見のみの設問)

問 21 川島町のまちづくりや人口減少問題についてご意見・ご提案をお聞かせください。(自由記入)

問 38 結婚、出産、子育て、少子化についてのご意見などがありましたら、お聞かせください。(自由記入)

2 調査結果のまとめと考察

(問1「回答者属性」のまとめは除く)

1 住環境やまちづくりに関する意識

(1) 住環境の評価

<生活環境への評価と理由>

- 川島町の生活環境への評価(問2)は、住みよい31.7%、ふつう30.6%、住みにくい33.5%とほぼ拮抗している。(※住みよい：住みよい+どちらかといえば住みよい。住みにくい：どちらかといえば住みにくい+住みにくい)
- 上記を地区別で見ると、伊草(市街化調整区域)は「どちらかといえば住みよい」が最も多く、三保谷では「どちらかといえば住みにくい」が他に比べて多い。
- 居住歴別で見ると、5年以上10年未満では「どちらかといえば住みよい」が他に比べて多い。年齢別にみると20歳代、30歳代後半、50歳代後半では「どちらかといえば住みにくい」が最も多い。
- 上記の経年比較(H20及びH23調査)をみると、ふつうの割合が大幅に増加し、「住みよい」が低下している。
- 住みやすさの主な理由(問2付問ア)は「自然環境」「人柄・土地柄」「安全・安心」。特に「自然環境」と「人柄・土地柄」は経年比較(H20及びH23調査)でも常に上位に挙げられている。
- 一方、住みにくさの主な理由(問2付問イ)は「交通の利便性がよくない」が84.0%を占める。経年比較(H20及びH23調査)でも「交通の利便性」「医療・福祉施設が充実」「買い物など日常生活の利便性」の上位3項目は同じである。また、「町の発展性がない」が前回よりも多い。

<居留意向、町の取り組みへの満足度>

- 川島町への居留意向(問8)は「住みつづけたい」73.8%(※住みつづけたい+どちらかといえば住みつづけたい)。ただし、10歳代~20歳代では「転出意向」(いずれは他の地域に転出したい+他の地域に転出したい)が5割を超える。
- 転出したい人の主な理由(問8付問)は「交通が不便なため」72.5%。
- 町の取り組みへの満足度(問9)は「19 公共交通の充実」へ不満が大きい。その他の項目はすべて「ふつう」が最も多い。
- 上記を属性別で見ると、子育て環境の一部の項目では10歳代、40歳代前半、居住歴5年以上10年未満などで不満度が多い。また、生活環境や産業の一部の項目にも属性によっては不満度が多い項目もみられる。

- 町の公共交通に必要な取り組み（問 17）は「東武バスの本数を増やす」51.2%、「東武バスの運賃補助」36.9%、「デマンド交通」25.3%を挙げている。

●調査結果のまとめと考察

現状の生活環境への評価は全体あるいは属性によって分かれるものの、居住意向は7割半ばと高い。

川島町の特長である「自然環境」と「人柄・土地柄」に加えて、自然災害の脅威から町民の命と暮らしを守る重要な基盤である「安全・安心」への取り組みをさらに進めるとともに、公共交通の利便性向上を一層図ることによって、生活環境の評価、将来の居住意向、そして町の発展性への評価も上昇すると考えられる。

さらには、年齢、地区、居住歴などによって評価やニーズは異なる点を考慮し、ライフサイクルや時機を得た取り組みを必要に応じて柔軟に展開することも効果的である。

(2) 安全・安心のまちづくり

- 「かわべえメール」の認知度（問 3）は55.2%（うち、使用中 19.8%）。なお、10歳代～20歳代では「知らない」が他の年齢に比べて多い。
- 災害に備えた日頃の準備（問 4）は「保存飲料水を備蓄している」40.1%が多い。なお、10歳代～20歳では「特に行っていない」が他の年齢に比べて多い。
- 犯罪の未然防止への主な取り組み（問 5）は「防犯灯や街路灯の数を増やす」60.9%が最も多い。なお、65歳以上では「近所の人とのつながりや助け合いを深める」が他の年齢に比べて多い。
- 高齢者の方などの日常生活の困り事を手助け（買物、通院の送迎、付き添い等）する「かわじま安心お助け隊」の認知度（問 6）は55.9%。
- 「かわじま安心お助け隊」への参加意欲（問 7）は、積極派（今すぐ参加）2.2%だが、将来派（将来の参加意欲）が36.0%に上る。中でも経営者、会社役員、自営業、会社員・団体職員（正規雇用）、公務員に将来派（将来の参加意欲）がやや多い。
- 日常の外出手段（問 16）は「自分で自動車等を運転」86.5%。

●調査結果のまとめと考察

東日本豪雨災害を踏まえ、安全・安心のまちづくりの重要性が改めて認識された。

住みやすさの理由のひとつである安全・安心については、かわべえメール、かわじま安心お助け隊の認知度向上、防犯灯や街路灯の増設によって地域の安心感はさらに高まる。

特にかわじま安心お助け隊への参加は、人のためであると同時に地域貢献や自分自身の生きがいにもつながることなどを積極的に情報発信することが重要である。また、個人、職場、グループでの参加など、幅広い参加を促す工夫も検討する必要がある。

また、自動車の運転者が多いことから、交通事故の未然防止策も大切となる。

(3) 各分野での重点施策への期待

- 住みやすさひとつである自然環境・生活環境の主な向上策（問 10）は「生活排水による河川の水質汚濁の防止」44.7%、「ゴミの減量やリサイクル、再資源化」37.3%。上位項目は平成 23 年度調査と同じ結果である。
- 都市基盤の向上策（問 11）は「公共交通の充実」72.2%が他を大きく上回る。
- 産業振興、雇用拡大への主な期待（問 12）は「誰もが働きやすい就労環境の向上」39.9%。
- 学校教育への主な期待（問 15）は「学習の基本となる基礎学力の定着」47.5%。

●調査結果のまとめと考察

各分野それぞれに重点施策への期待がある。中でも「公共交通の充実」への期待は極めて大きい。

町民が「町民意向が反映された町政」を実感するためにも、町民の期待に対し、各分野で目に見える取り組みを展開することが大切になる。

(4) 協働のまちづくり

- 地域活動やボランティア活動への参加意向（問 18）は、参加意向あり 35.2%、どちらともいえない 28.1%、参加意向なし 33.6%とほぼ拮抗している。（※意向あり：積極的に参加したい＋できる範囲で参加したい。意向なし：あまり参加したくない＋参加したくない、参加しない）
- 上記を年齢別で見ると、20 歳代前半で参加意向ありが 4 割と多く、20 歳代後半と 70 歳以上では参加意向なしが 5 割と多い。
- 地域やボランティア活動での主な希望（問 18 付問）は「美化活動や緑化活動など、住環境に関する活動」「健康増進、スポーツ、文化芸術振興に関する活動」「地域内の助け合いや課題解決など、地域づくりに関する活動」。
- 上記の経年比較（H20 及び H23 調査）でも環境保全、生涯学習に関する活動が上位に挙げられた。また、前回の選択肢になかった地域づくり活動が第 3 位に入った。
- 前問の結果で参加意向が比較的高い 20 歳代前半では「行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動」が最も多い。

●調査結果のまとめと考察

現状で地域活動やボランティア活動への町民の参加意向は約 3 割にとどまる。

協働のまちづくりの活動を着実に広げていくため、町民の意識啓発とともに、「美化活動や緑化活動」「健康増進、スポーツ、文化活動」「地域づくり活動」など町民の協力を得やすい活動に多くの世代が参加しやすい仕組みを行政として仕掛けていくことも必要になる。

中でも 20 歳代前半の参加意向の高さを活かし、地域づくりや伝統文化の活動の活性化を図り、“若者が活躍するまち”につなげていくことも必要である。

(5) 町の直面する課題への施策

- 町の人口減少社会への主な対策（問 19）は「子どもを産み、育てやすい環境の整備」54.5%、「働く場の確保」44.5%。
- 子育て支援・少子化への主な対策（問 20）は「保育サービスの充実」35.2%。その他には「子どもの教育資金の支援」23.9%、「育児中の従業員に対する短時間勤務などの配慮」21.7%。
- 上記を年齢別で見ると、10 歳代～20 歳代は「保育サービスの充実」と「育児休業中の給与保障」が、40 歳代では「保育サービスの充実」と「子どもの教育資金の支援」がそれぞれ他の年齢に比べて多い。
- 年収別で見ると、500 万円台と 1,000 万円以上では「保育サービスの充実」と「子どもの教育資金の支援」が他の年収に比べて多い。

●調査結果のまとめと考察

町の直面する課題に対する町民が期待する施策は、子どもを産み育てやすい環境の向上であり、最優先は保育サービスの充実である。

こうした町民の期待に町政は応えていくことが求められる。

また、「育児休業中の給与保障」や「子どもの教育資金の支援」といった経済支援に対するニーズも高いことから、将来を見据えた財政投資という面から検討する必要がある。

2 結婚・出産・子育てに関する意識

(1) 結婚・出産に関する実態（対象：18歳～49歳かつ既婚者（事実婚含む））

- 初婚年齢（問 25）は「25歳～29歳」45.2%、「20歳～24歳」25.8%。結婚の主な決め手・理由（問 26）は「年齢」。
- 現実的な子どもの人数（問 27）は「2.05人」。理想的な子どもの人数（問 28）は「2.52人」。理想より子どもの人数が少ない主な理由（問 29）は「子育てや教育にお金がかかるから」48.7%。
- 不妊の不安や悩みがある（あった）割合（問 30）は37.4%（「過去に子どもができないのではないかと心配したことがある」29.7%+「現在、子どもができないのではないかと心配している」7.7%）。
- 不妊の不安や悩みがある（あった）方で実際の不妊治療の経験（問 30 付問ア）は51.7%（「過去に検査や治療を受けたことがある」50.0%+「現在、検査や治療を受けている」1.7%）。
- 上記を年齢別で見ると30歳代後半～40歳代で「過去に検査や治療を受けたことがある」がやや多くみられる。

●調査結果のまとめと考察

本町では20歳代の結婚が7割。20歳代を対象にした婚活支援が効果的と考えられる。

下記の結果から出生率向上策として、現実1人→理想2人（53.8%）、現実2人→理想3人（31.0%）の希望を叶える方策に重点を置くことがより効果的である。

		合計	問28 あなたにとって理想的な子どもの人数						無回答	非該当
			1人	2人	3人	4人以上	0人			
	全体	155	4	76	59	13	1	2	650	
		100.0	2.6	49.0	38.1	8.4	0.6	1.3		
問27 今の子どもと今後生む予定の子どもを合わせると何人になるか	1人	26	4	14	7	1	0	0	0	
		100.0	15.4	53.8	26.9	3.8	0.0	0.0		
	2人	71	0	46	22	3	0	0	0	
		100.0	0.0	64.8	31.0	4.2	0.0	0.0		
	3人	35	0	3	27	5	0	0	0	
		100.0	0.0	8.6	77.1	14.3	0.0	0.0		
4人以上	10	0	4	2	4	0	0	0		
	100.0	0.0	15.4	20.0	40.0	0.0	0.0			
0人	11	0	9	1	0	1	0	0		
	100.0	0.0	81.8	9.1	0.0	9.1	0.0			

また、現実0人→理想1～2人の希望を叶える方策のひとつとして、相談→治療→出産につなげる不妊の相談及び支援策の充実が効果的と考えられる。

(2) 子育てと仕事の両立に関する実態（18歳～49歳かつ既婚者（事実婚含む））

- 妊娠・出産・育児をきっかけに本人か配偶者が仕事を辞めた経験（問31）は「経験がある」58.7%。
- 上記を職業別で見ると公務員を除き、「経験がある」が多い。
- 仕事を辞めた主な理由（問31 付問ア① 複数回答）は「家事、育児に時間をとれたため」42.9%、「仕事の状況から働き続けるのが難しかった」38.5%。
- 上記を職業別で見ると、経営者、会社役員、自営業、会社員・団体職員（正規雇用）、派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託では、「仕事の状況から働き続けるのが難しかったため」が他の職業に比べて多い。
- 働き続けるのが難しいと思った主な理由（問31 付問イ）は「労働時間が長く、時間的に厳しかった」51.4%、「仕事と家庭を両立して働き続ける制度や雰囲気なかった」45.7%。
- 復職・再就職したい気持ち（問31 付問ア②）は「ある」68.2%。

●調査結果のまとめと考察

本人か配偶者が妊娠・出産・育児をきっかけに仕事を辞めた経験者もある程度みられる。その中で職場の両立支援策によっては離職しなかった可能性も想定される。

この実態を踏まえ、現実1人→理想2人、現実2人→理想3人の希望を叶える方策として、家庭や職場、保育サービスを含めた両立支援の充実、復職・再就職しやすい環境づくりが重要になる。

また、町内の企業（雇用者）に対し、子育てと仕事を両立する就業環境への改善に取り組みやすくする施策も検討の必要がある。

(3) 結婚についての意識（対象：18歳～49歳かつ独身）

- 将来の結婚希望（問33）は67.2%。
- 結婚したい年齢（問33 付問ア②）は「25歳～29歳」36.6%が多い。中でも10歳代～20歳代後半では「25歳～29歳」が最も多い。
- 結婚したい主な理由（問33 付問ア①）は「自分の子どもや家族が持てる」57.3%。
- 結婚（出会い）に向けた行動（問33 付問ア③）は「特に何も行ってない」78.0%。
- 独身でいる主な理由（問34）は「適当な相手にまだめぐり合わないから」33.6%。
- 結婚相手で重視する点（問36）は「相手の人柄」77.0%。
- 異性との交際経験（問35）は「ある」62.3%。
- 将来、欲しい子どもの人数（問37）は「2人」47.5%が最も多い。

●調査結果のまとめと考察

独身者の7割近くは20歳代での結婚を希望しており、特に「25歳～29歳」での希望が多い。（既婚者の初婚年齢（問25）も20歳代の結婚が7割を占める。）

独身でいる主な理由は「適当な相手にめぐり合わない」ことであるものの、結婚（出会い）に向けた積極的な行動をしていないケースが8割近くに上る。

こうした実態から、独身者の希望を叶えると同時に出生数増加の要件となる婚姻率上昇のためにも、川島町の資源を活かし、20歳代を対象に出会う機会を増やすことがより効果的であると考えられる。

3 就業（しごと）に関する意識

（1）就業についての意向

<社会人の就業意向>

- 就業への基本的な姿勢（問 22）は「現在の仕事を続けたい」45.2%。
- 属性別でみると「転職したい」は20歳代前半～40歳代前半で20%前後みられる。
- 転職、定年後の再就職、今後の就業を希望する方の主な希望場所（問 22 付問ア）は「川島町隣接市町」45.2%または「町内」41.0%。
- 町内就業の主な条件（問 22 付問イ）は「希望する職種や業種、魅力的な会社がある」52.6%、「給与条件がよい」51.5%。

<学生の進路意向>

- 卒業後の主な進路（問 32）は「就職する」73.3%。希望の就業場所（問 32 付問ア）は「川島町隣接市町」33.3%、「東京都内」25.0%。「町内」は8.3%。
- 町外を就業場所に選択した場合の居住場所（問 32 付問イ）は「町外に転出する」81.8%、「町内にそのまま居住する」18.2%。
- 将来、町内に帰って来る際に最も重視すること（問 32 付問ウ）は「住まいなどの生活環境」66.7%。

●調査結果のまとめと考察

社会人の20歳代前半～40歳代前半の転職希望は20%前後みられ、転職などを希望する場合の就業場所は隣接市町か町内である。町内就業の条件は「働きがい」と「給与」を挙げている。

一方、多くの学生は隣接市町か都内で暮らしながら働くことを希望している。ただし、希望する場所は本町からの通勤圏内である。

社会人及び学生の就業については、町内への就職や転職を選択できるよう、町民の希望が叶う多様な就業の場を町内に増やすこと、農業の6次産業化を進め関連する業種を増やすことなどが必要になる。

また、Uターンや定住して通勤することを選択できるよう、「住まいなどの生活環境」の着実な充実も必要である。

さらには、町民一人ひとりに郷土愛が育まれるよう、幼少期からの教育や地域活動の活性化も長い目でみると重要と考えられる。

(2) 農業振興策

- 農業振興への主な期待（問 13）は「町の特産品をつくる」31.4%、「摘み取りを楽しむ観光農園をつくる」27.5%、「農業公社、農業法人の設立」26.8%。
- 農業以外の方の就農意向（問 14）は、積極派 8.5%（今すぐ農業をやってみたい 0.7%＋農地があれば農業をやってみたい 7.8%）、将来派 11.5%（現在の仕事をやめたら農業をやってみたい）。
- やってみたい農業（問 14 付問①）は「施設園芸（果物・野菜など）」70.3%が他を大きく上回る。
- やってみたい農業に必要なこと（問 14 付問②）は主に「資金援助」「実習場所」「土地相談」。

●調査結果のまとめと考察

町民は、農業の6次産業化、観光との連携、農業の体制強化を期待している。

一方、2割程度いると考えられる就農意向のある町民を継続的に発掘し、「施設園芸（果物・野菜など）」を始める「資金援助」「実習場所」「土地相談」に一層取り組むことが必要である。

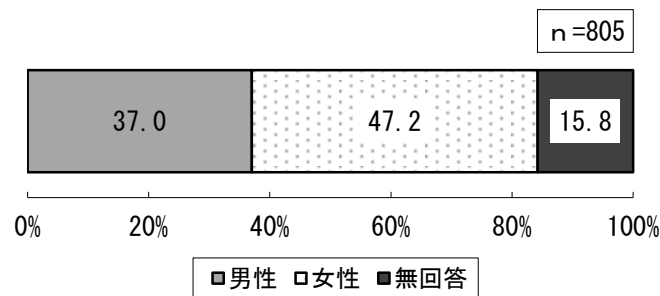
3 調査結果

1 ご本人（あなた）について

問1 あなたご自身について、項目ごとにあてはまる番号を選んでください。
(それぞれ1つに○)

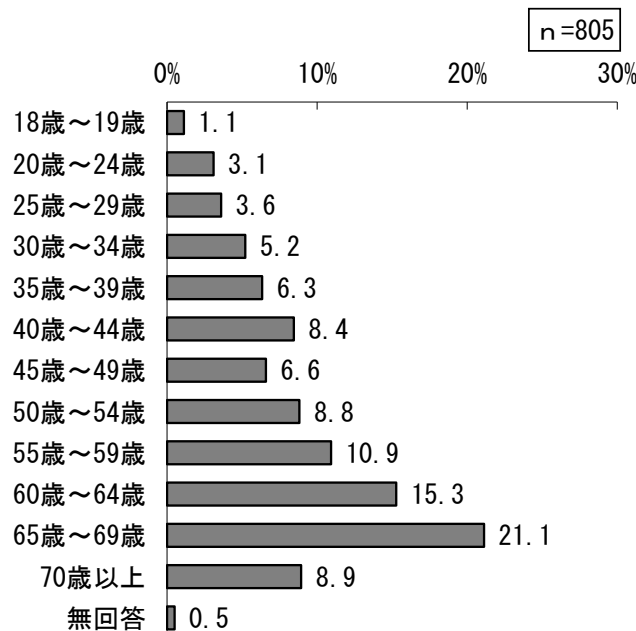
(1) 性別

○ 性別は、「男性」37.0%、「女性」47.2%。



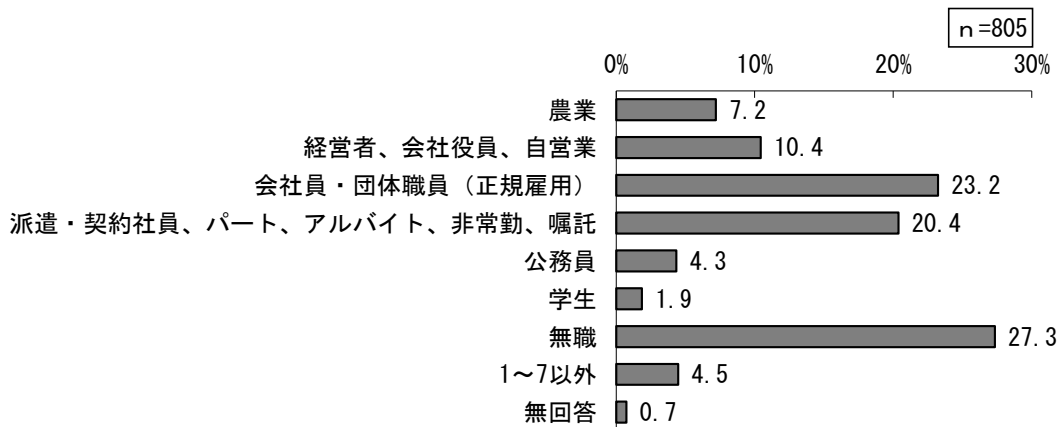
(2) 年齢

○ 年齢は、「65歳～69歳」21.1%が最も多く、次いで「60～64歳」15.3%、「55歳～59歳」10.9%と続く。



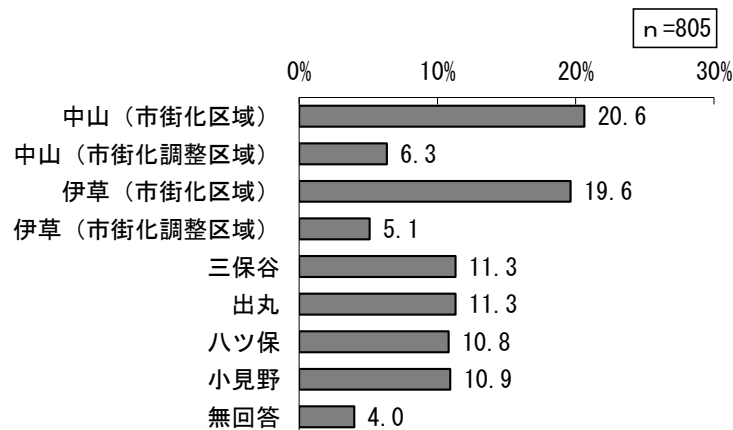
(3) 主な職業

- 主な職業は、「無職」27.3%が最も多く、次いで「会社員・団体職員（正規雇用）」23.2%、「派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託」20.4%と続く。



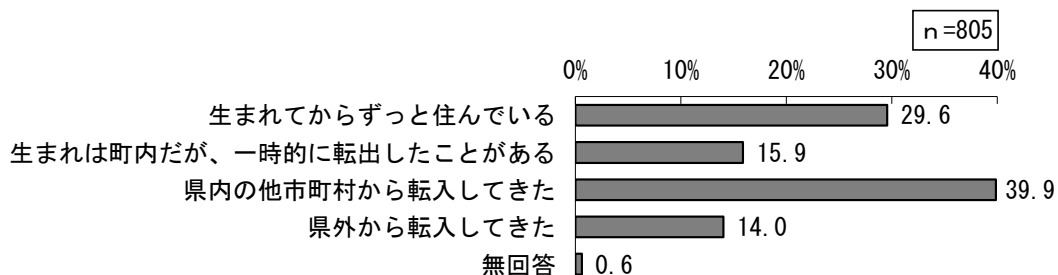
(4) 居住地区

- 居住地区は、「中山（市街化区域）」20.6%、「伊草（市街化区域）」19.6%が多く、次いで「三保谷」「出丸」ともに11.3%と続く。



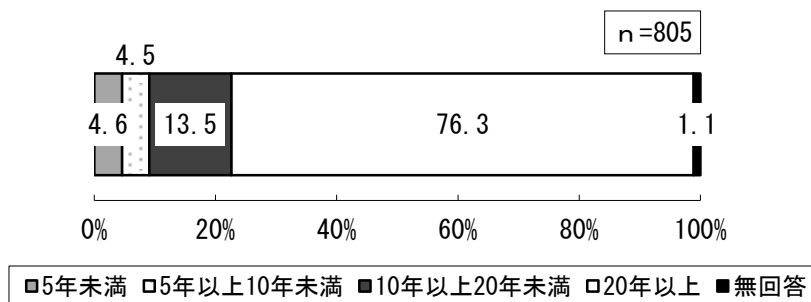
(5) 居住歴

- 居住歴は、「県内の他市町村から転入してきた」39.9%が最も多く、次いで「生まれてからずっと住んでいる」29.6%、「生まれは町内だが、一時的に転出したことがある」15.9%と続く。



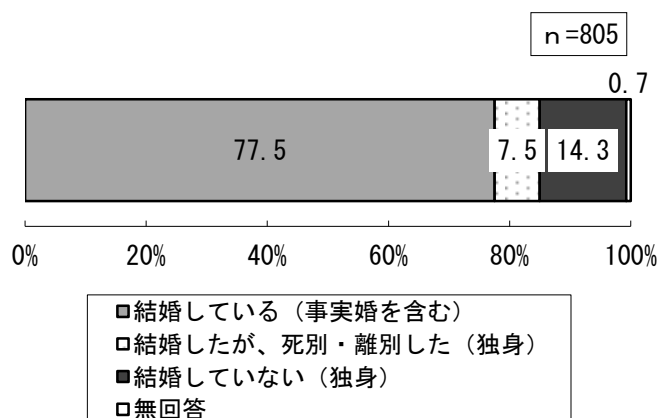
(6) 居住年数（合計）

- 居住年数（合計）は、「20年以上」76.3%が最も多く、次いで「10年以上20年未満」13.5%、「5年未満」4.6%と続く。



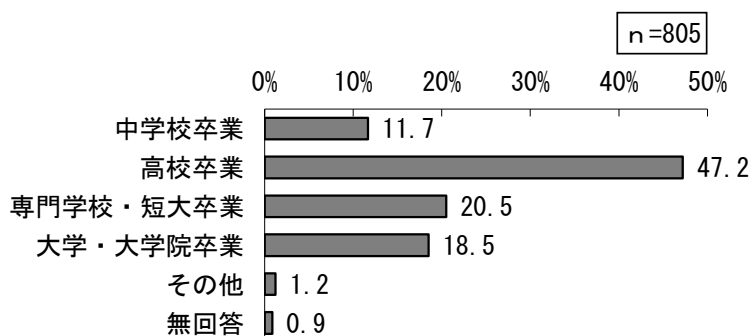
(7) 結婚

- 婚姻状況は、「結婚している」77.5%、「結婚していない（独身）」14.3%、「結婚したが、死別・離別した（独身）」7.5%。



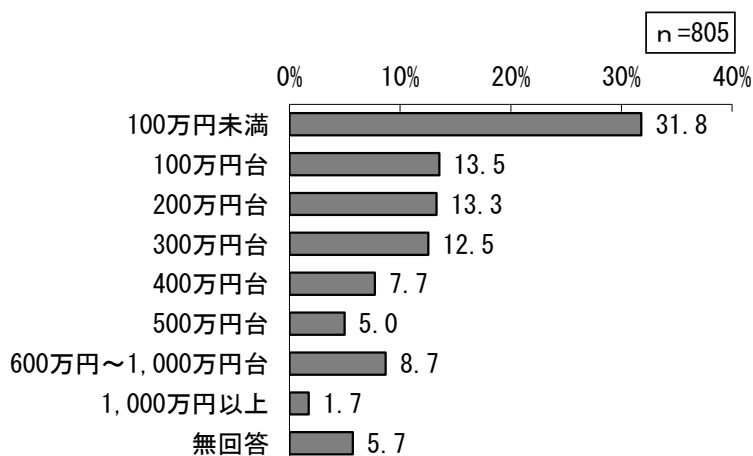
(8) 最終学歴

- 最終学歴は、「高校卒業」47.2%が最も多く、次いで、「専門学校・短大卒業」20.5%、「大学・大学院卒業」18.5%と続く。



(9) 昨年（平成26年）の年収

- 昨年の年収は、「100万円未満」31.8%が最も多く、次いで「100万円台」13.5%、「200万円台」13.3%と続く。



- 職業別でみると、農業、派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託、学生、無職、1～7以外は「100万円未満」が最も多い。

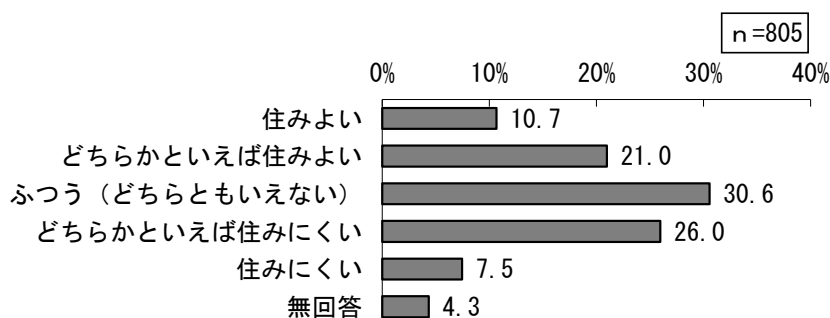
	合計	100万円未満	100万円台	200万円台	300万円台	400万円台	500万円台	600万円～1,000万円台	1,000万円以上
全体	805	256	109	107	101	62	40	70	14
	100.0	31.8	13.5	13.3	12.5	7.7	5.0	8.7	1.7
農業	58	21	7	10	7	1	3	1	2
	100.0	36.2	12.1	17.2	12.1	1.7	5.2	1.7	3.4
経営者、会社役員、自営業	84	8	9	16	11	15	4	11	4
	100.0	9.5	10.7	19.0	13.1	17.9	4.8	13.1	4.8
会社員・団体職員（正規雇用）	187	5	11	20	52	33	26	33	6
	100.0	2.7	5.9	10.7	27.8	17.6	13.9	17.6	3.2
派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託	164	72	36	23	15	8	3	4	0
	100.0	43.9	22.0	14.0	9.1	4.9	1.8	2.4	0.0
公務員	35	2	2	4	5	2	3	16	0
	100.0	5.7	5.7	11.4	14.3	5.7	8.6	45.7	0.0
学生	15	13	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	86.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無職	220	117	37	30	9	2	0	3	1
	100.0	53.2	16.8	13.6	4.1	0.9	0.0	1.4	0.5
1～7以外	36	17	5	4	0	1	1	1	1
	100.0	47.2	13.9	11.1	0.0	2.8	2.8	2.8	2.8

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

2 川島町のことについて

問2 まちの全体の印象についておたずねします。あなたにとって、川島町は住みよいまちですか。（1つに〇）

- 〇 川島町は住みよいかは、「ふつう（どちらともいえない）」30.6%が最も多く、次いで、「どちらかといえば住みにくい」26.0%、「どちらかといえば住みよい」21.0%と続く。



- 〇 地区別でみると、伊草（市街化調整区域）は「どちらかといえば住みよい」が最も多く、三保谷では「どちらかといえば住みにくい」が他に比べて多い。
- 〇 居住歴別でみると、5年以上10年未満では「どちらかといえば住みよい」が他に比べて多い。

	合計	住みよい	どちらか といえば 住みよい	ふつう (どちら ともいえ ない)	どちらか といえば 住みにく い	住みにく い
全体	805	86	169	246	209	60
	100.0	10.7	21.0	30.6	26.0	7.5
中山（市街化区域）	166	8	30	66	43	12
	100.0	4.8	18.1	39.8	25.9	7.2
中山（市街化調整区域）	51	7	13	14	13	3
	100.0	13.7	25.5	27.5	25.5	5.9
伊草（市街化区域）	158	17	35	50	44	7
	100.0	10.8	22.2	31.6	27.8	4.4
伊草（市街化調整区域）	41	4	16	14	2	4
	100.0	9.8	39.0	34.1	4.9	9.8
三保谷	91	5	17	28	29	10
	100.0	5.5	18.7	30.8	31.9	11.0
出丸	91	10	21	25	20	10
	100.0	11.0	23.1	27.5	22.0	11.0
八ツ保	87	16	15	20	26	5
	100.0	18.4	17.2	23.0	29.9	5.7
小見野	88	14	16	19	26	6
	100.0	15.9	18.2	21.6	29.5	6.8
5年未満	37	5	7	10	11	3
	100.0	13.5	18.9	27.0	29.7	8.1
5年以上10年未満	36	1	4	11	14	5
	100.0	2.8	11.1	30.6	38.9	13.9
10年以上20年未満	109	12	19	35	29	8
	100.0	11.0	17.4	32.1	26.6	7.3
20年以上	614	65	138	188	154	43
	100.0	10.6	22.5	30.6	25.1	7.0

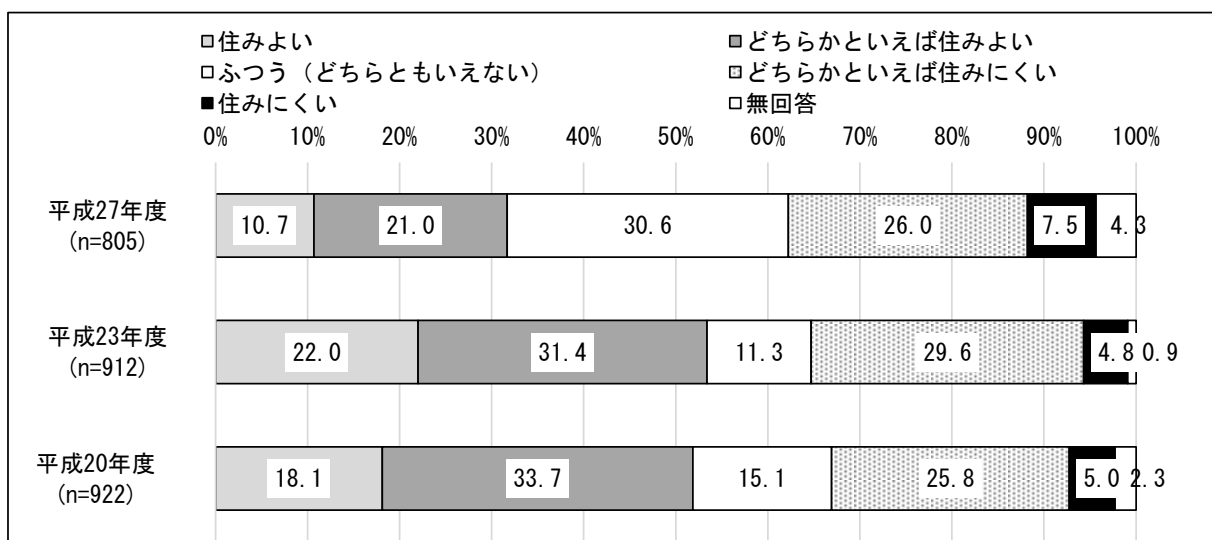
上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

- 年齢別にみると20歳代、30歳代後半、50歳代後半では「どちらかといえば住みにくい」が最も多い。

	合計	住みよい	どちらか といえば 住みよい	ふつう (どちら ともいえ ない)	どちらか といえば 住みにく い	住みにく い
全体	805	86	169	246	209	60
	100.0	10.7	21.0	30.6	26.0	7.5
18歳～19歳	9	0	0	3	3	3
	100.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
20歳～24歳	25	1	7	4	8	3
	100.0	4.0	28.0	16.0	32.0	12.0
25歳～29歳	29	2	5	7	11	4
	100.0	6.9	17.2	24.1	37.9	13.8
30歳～34歳	42	0	7	19	15	1
	100.0	0.0	16.7	45.2	35.7	2.4
35歳～39歳	51	3	12	12	13	10
	100.0	5.9	23.5	23.5	25.5	19.6
40歳～44歳	68	4	18	21	16	6
	100.0	5.9	26.5	30.9	23.5	8.8
45歳～49歳	53	6	12	15	13	5
	100.0	11.3	22.6	28.3	24.5	9.4
50歳～54歳	71	5	17	22	16	7
	100.0	7.0	23.9	31.0	22.5	9.9
55歳～59歳	88	8	14	22	33	7
	100.0	9.1	15.9	25.0	37.5	8.0
60歳～64歳	123	17	26	42	28	5
	100.0	13.8	21.1	34.1	22.8	4.1
65歳～69歳	170	28	36	55	36	7
	100.0	16.5	21.2	32.4	21.2	4.1
70歳以上	72	12	14	22	16	2
	100.0	16.7	19.4	30.6	22.2	2.8

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

- 経年比較（※）でみると、「ふつう（どちらともいえない）」の割合が大幅に増加し、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」が低下している。

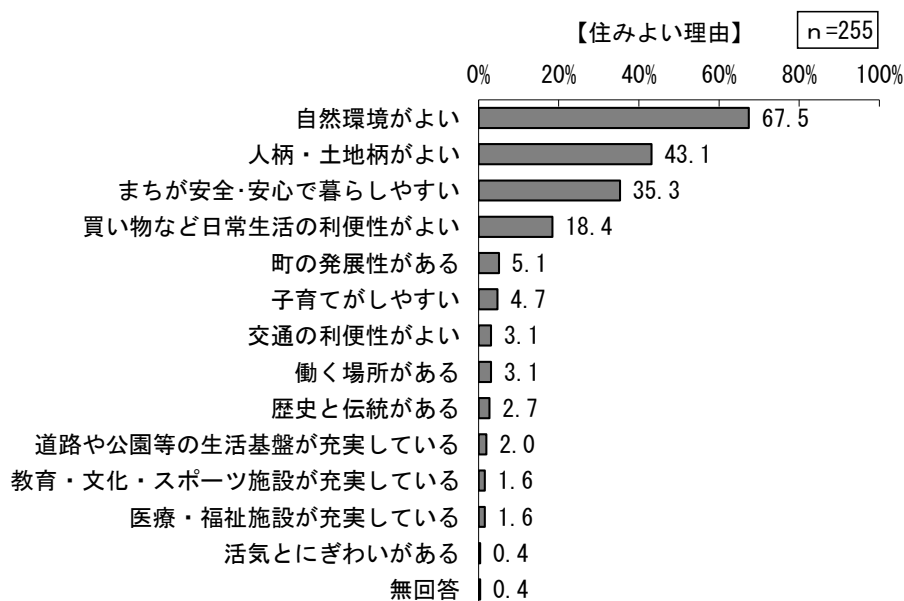


※平成27年度調査は調査対象年齢が前回調査と異なるため、参考データとして掲載

付問 問2で「1~2」または「4~5」に○をつけた方のみお答えください。

ア 「1~2（住みよい、どちらかといえば住みよい）」の方の住みよい理由（主なもの2つまでに○）

- 住みよい理由は、「自然環境がよい」67.5%が最も多く、次いで「人柄・土地柄がよい」43.1%、「まちが安全・安心で暮らしやすい」35.3%と続く。



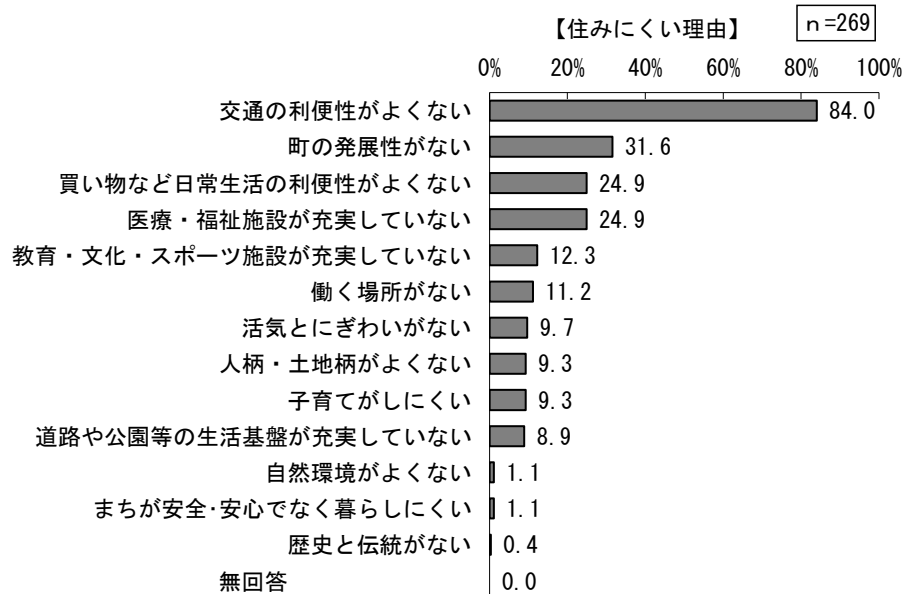
- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
- 経年比較（※）でも「自然環境がよい」と「人柄・土地柄がよい」の上位項目は同じである。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=255)	自然環境がよい 67.5	人柄・土地柄がよい 43.1	まちが安全・安心で暮らしやすい（※） 35.3
平成23年度 (n=487)	自然環境がよい 84.6	人柄・土地柄がよい 59.8	買い物など日常生活が便利 性がよい 29.0
平成20年度 (n=478)	バスや鉄道などの公共交 通が不便なため 80.5	買い物が不便なため 56.1	買い物など日常生活が便利 性がよい 25.3

※平成27年度の第3位「まちが安全・安心で暮らしやすい」は前回までの選択肢にはない項目

イ 「4～5（どちらかといえば住みにくい、住みにくい）」の方の住みよい理由（主なもの2つまでに○）

- 住みにくい理由は、「交通の利便性がよくない」84.0%が最も多く、次いで「町の発展性がない」31.6%、「買い物など日常生活の利便性がよくない」「医療・福祉施設が充実していない」ともに24.9%と続く。

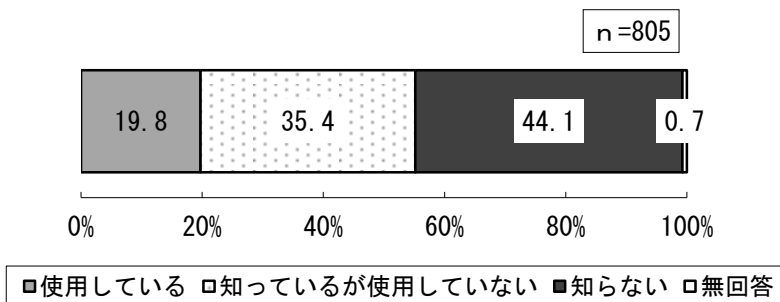


- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
- 経年比較でも「交通の利便性」「医療・福祉施設が充実」「買い物など日常生活の利便性」の上位3項目は同じであるが、前回までに比べて「町の発展性がない」（平成23年度25.2%、平成20年度26.4%）が多い。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=269)	交通の利便性がよくない 84.0	町の発展性がない 31.6	買い物など日常生活の利便性がよくない 医療・福祉施設が充実していない 24.9
平成23年度 (n=314)	交通の利便性がよくない 89.2	医療・福祉施設が充実していない 34.7	買い物など日常生活の利便性がよくない 34.1
平成20年度 (n=284)	交通の利便性がよくない 85.6	買い物など日常生活の利便性がよくない 41.9	医療・福祉施設が充実していない 38.7

問3 町から携帯電話等に防災情報・防犯情報・その他イベント情報等がメールで発信される「かわべえメール」があります。あなたは知っていますか。（1つに○）

- 「かわべえメール」について、「知らない」44.1%、「知っているが使用していない」35.4%、「使用している」19.8%。



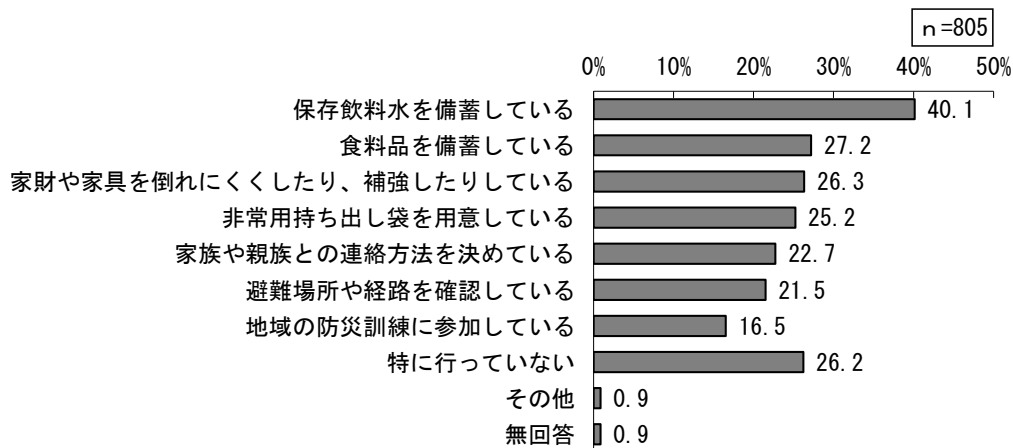
- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向だが、10歳代～20歳代では「知らない」が他の年齢に比べて多い。

	合計	使用している	知っているが使用していない	知らない
全体	805	159	285	355
	100.0	19.8	35.4	44.1
男性	298	52	105	137
	100.0	17.4	35.2	46.0
女性	380	87	148	144
	100.0	22.9	38.9	37.9
18歳～19歳	9	0	4	5
	100.0	0.0	44.4	55.6
20歳～24歳	25	1	2	22
	100.0	4.0	8.0	88.0
25歳～29歳	29	4	5	20
	100.0	13.8	17.2	69.0
30歳～34歳	42	6	17	19
	100.0	14.3	40.5	45.2
35歳～39歳	51	12	23	16
	100.0	23.5	45.1	31.4
40歳～44歳	68	19	21	28
	100.0	27.9	30.9	41.2
45歳～49歳	53	18	19	16
	100.0	34.0	35.8	30.2
50歳～54歳	71	18	22	28
	100.0	25.4	31.0	39.4
55歳～59歳	88	17	36	34
	100.0	19.3	40.9	38.6
60歳～64歳	123	29	40	54
	100.0	23.6	32.5	43.9
65歳～69歳	170	28	64	76
	100.0	16.5	37.6	44.7
70歳以上	72	6	31	35
	100.0	8.3	43.1	48.6

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

問4 あなたは日ごろから災害に備え、どのような準備を行っていますか。また、東日本大震災をきっかけにして、新たに準備を始めたものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 災害に備えた日頃からの準備は、「保存飲料水を備蓄している」40.1%が最も多く、次いで「食料品を備蓄している」27.2%、「家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている」26.3%と続く。



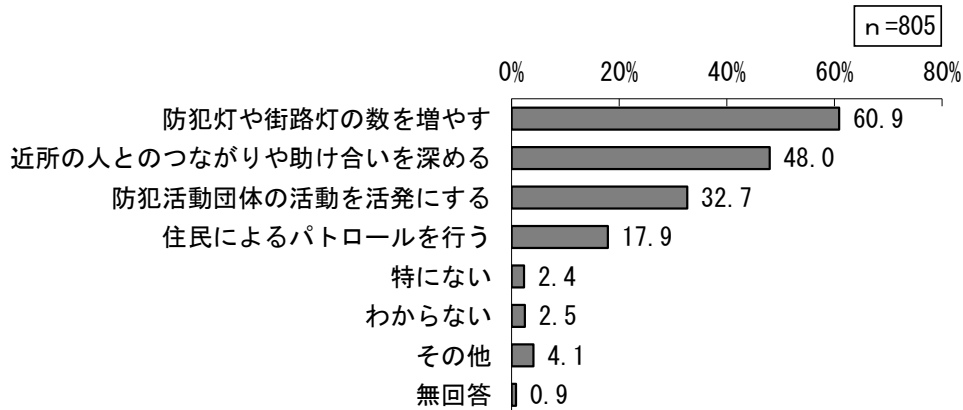
- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向だが、10歳代～20歳では「特に行っていない」が他の年齢に比べて多い。

	合計	家族や親族との連絡方法を決めている	保存飲料水を備蓄している	食料品を備蓄している	非常用持ち出し袋を用意している	家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている	避難場所や経路を確認している	地域の防災訓練に参加している	特に行っていない
全体	805	183	323	219	203	212	173	133	211
	100.0	22.7	40.1	27.2	25.2	26.3	21.5	16.5	26.2
18歳～19歳	9	1	1	0	2	1	1	0	5
	100.0	11.1	11.1	0.0	22.2	11.1	11.1	0.0	55.6
20歳～24歳	25	5	7	4	3	2	2	1	14
	100.0	20.0	28.0	16.0	12.0	8.0	8.0	4.0	56.0
25歳～29歳	29	7	5	4	4	4	2	0	14
	100.0	24.1	17.2	13.8	13.8	13.8	6.9	0.0	48.3
30歳～34歳	42	6	17	10	7	7	7	0	15
	100.0	14.3	40.5	23.8	16.7	16.7	16.7	0.0	35.7
35歳～39歳	51	10	21	12	13	9	16	4	14
	100.0	19.6	41.2	23.5	25.5	17.6	31.4	7.8	27.5
40歳～44歳	68	13	30	21	14	23	10	9	17
	100.0	19.1	44.1	30.9	20.6	33.8	14.7	13.2	25.0
45歳～49歳	53	12	19	18	10	12	13	8	15
	100.0	22.6	35.8	34.0	18.9	22.6	24.5	15.1	28.3
50歳～54歳	71	15	30	16	15	20	15	16	20
	100.0	21.1	42.3	22.5	21.1	28.2	21.1	22.5	28.2
55歳～59歳	88	20	33	23	28	28	15	13	19
	100.0	22.7	37.5	26.1	31.8	31.8	17.0	14.8	21.6
60歳～64歳	123	35	57	42	34	35	25	34	31
	100.0	28.5	46.3	34.1	27.6	28.5	20.3	27.6	25.2
65歳～69歳	170	37	77	46	53	47	46	36	31
	100.0	21.8	45.3	27.1	31.2	27.6	27.1	21.2	18.2
70歳以上	72	22	24	21	18	23	21	11	16
	100.0	30.6	33.3	29.2	25.0	31.9	29.2	15.3	22.2

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（その他、無回答は非表示）

問5 あなたは、犯罪を防止するために、地域や行政がどのような取り組みをしたらよいと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 犯罪を防止するために、地域や行政が取り組むべきことは、「防犯灯や街路灯の数を増やす」60.9%が最も多く、次いで「近所の人とのつながりや助け合いを深める」48.0%、「防犯活動団体の活動を活発にする」32.7%と続く。



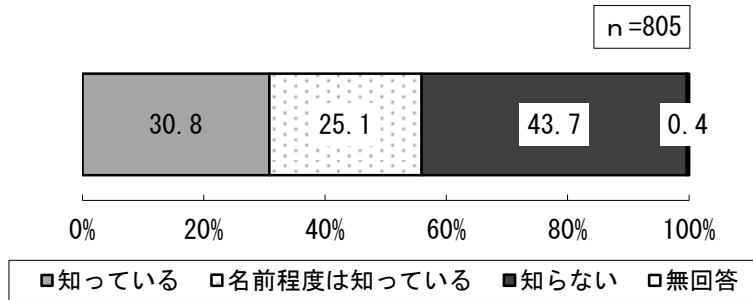
- 属性別でもみて全体結果と概ね同様の傾向だが、65歳以上では「近所の人とのつながりや助け合いを深める」が他の年齢に比べて多い。

	合計	住民によるパトロールを行う	近所の人とのつながりや助け合いを深める	防犯活動団体の活動を活発にする	防犯灯や街路灯の数を増やす	特にない	わからない
全体	805	144	386	263	490	19	20
	100.0	17.9	48.0	32.7	60.9	2.4	2.5
18歳～19歳	9	1	2	2	3	2	1
	100.0	11.1	22.2	22.2	33.3	22.2	11.1
20歳～24歳	25	8	9	6	18	0	1
	100.0	32.0	36.0	24.0	72.0	0.0	4.0
25歳～29歳	29	6	9	11	18	1	1
	100.0	20.7	31.0	37.9	62.1	3.4	3.4
30歳～34歳	42	6	18	19	29	2	0
	100.0	14.3	42.9	45.2	69.0	4.8	0.0
35歳～39歳	51	8	24	17	33	0	2
	100.0	15.7	47.1	33.3	64.7	0.0	3.9
40歳～44歳	68	8	25	25	43	0	5
	100.0	11.8	36.8	36.8	63.2	0.0	7.4
45歳～49歳	53	7	13	22	36	1	2
	100.0	13.2	24.5	41.5	67.9	1.9	3.8
50歳～54歳	71	14	33	17	52	0	0
	100.0	19.7	46.5	23.9	73.2	0.0	0.0
55歳～59歳	88	12	38	37	54	2	0
	100.0	13.6	43.2	42.0	61.4	2.3	0.0
60歳～64歳	123	30	65	37	75	3	3
	100.0	24.4	52.8	30.1	61.0	2.4	2.4
65歳～69歳	170	29	106	50	91	5	5
	100.0	17.1	62.4	29.4	53.5	2.9	2.9
70歳以上	72	15	42	19	35	3	0
	100.0	20.8	58.3	26.4	48.6	4.2	0.0

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（その他、無回答は非表示）

問6 町では、高齢者の方などの日常生活の困り事を手助け（買物、通院の送迎、付き添い等）するために「かわじま安心お助け隊」を設置しています。あなたは、そのサービスを知っていますか。（1つに○）

- 「かわじま安心お助け隊」について、「知らない」43.7%、「知っている」30.8%、「名前程度は知っている」25.1%。



- 属性別でもみても全体結果と概ね同様の傾向だが、65歳以上では「知っている」が他の年齢に比べて多い。

	合計	知っている	名前程度は知っている	知らない
全体	805	248	202	352
	100.0	30.8	25.1	43.7
18歳～19歳	9	0	0	9
	100.0	0.0	0.0	100.0
20歳～24歳	25	2	1	22
	100.0	8.0	4.0	88.0
25歳～29歳	29	4	2	23
	100.0	13.8	6.9	79.3
30歳～34歳	42	4	7	31
	100.0	9.5	16.7	73.8
35歳～39歳	51	14	15	22
	100.0	27.5	29.4	43.1
40歳～44歳	68	11	15	42
	100.0	16.2	22.1	61.8
45歳～49歳	53	15	13	25
	100.0	28.3	24.5	47.2
50歳～54歳	71	15	22	34
	100.0	21.1	31.0	47.9
55歳～59歳	88	28	21	39
	100.0	31.8	23.9	44.3
60歳～64歳	123	41	35	47
	100.0	33.3	28.5	38.2
65歳～69歳	170	76	46	47
	100.0	44.7	27.1	27.6
70歳以上	72	38	24	8
	100.0	52.8	33.3	11.1

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

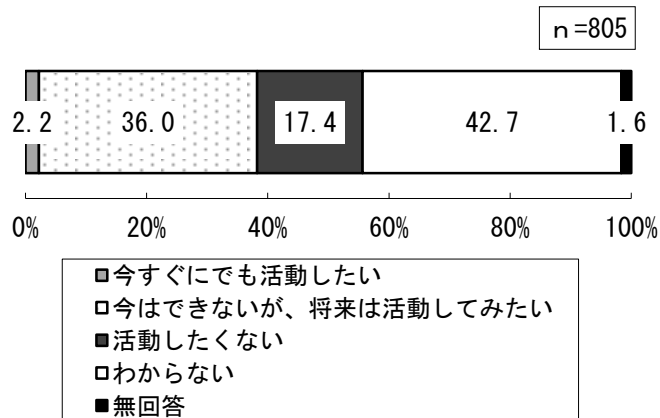
- 地区別でも全体結果と概ね同様の傾向だが、出丸、ハツ保では「知っている」が他の地区に比べて多い。

	合計	知っている	名前程度は知っている	知らない
全体	805	248	202	352
	100.0	30.8	25.1	43.7
中山（市街化区域）	166	47	44	74
	100.0	28.3	26.5	44.6
中山（市街化調整区域）	51	9	11	31
	100.0	17.6	21.6	60.8
伊草（市街化区域）	158	39	39	80
	100.0	24.7	24.7	50.6
伊草（市街化調整区域）	41	14	9	18
	100.0	34.1	22.0	43.9
三保谷	91	29	28	34
	100.0	31.9	30.8	37.4
出丸	91	41	20	30
	100.0	45.1	22.0	33.0
ハツ保	87	39	17	30
	100.0	44.8	19.5	34.5
小見野	88	25	30	33
	100.0	28.4	34.1	37.5

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

問7 あなたは「かわじま安心お助け隊」として活動したいですか。

- 「かわじま安心お助け隊」として活動したいかは、「わからない」42.7%が最も多く、次いで「今はできないが、将来は活動してみたい」36.0%、「活動したくない」17.4%と続く。



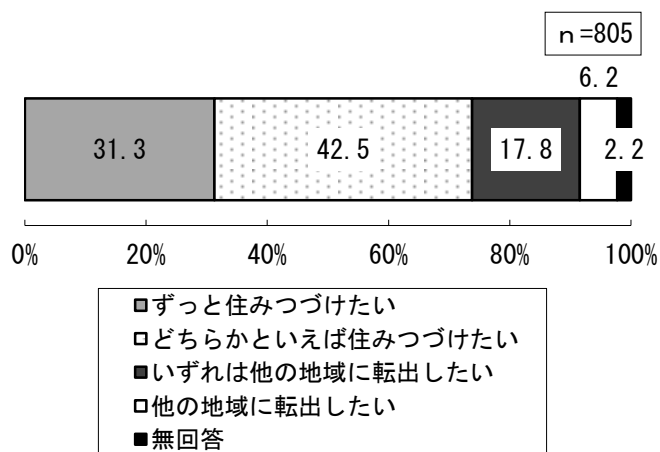
- 職業別でもみて全体結果と概ね同様の傾向だが、経営者、会社役員、自営業、会社員・団体職員（正規雇用）、公務員では「今はできないが、将来は活動してみたい」が他の職業に比べてやや多い。

	合計	今すぐにも活動したい	今はできないが、将来は活動してみたい	活動したくない	わからない
全体	805	18	290	140	344
	100.0	2.2	36.0	17.4	42.7
農業	58	2	22	5	26
	100.0	3.4	37.9	8.6	44.8
経営者、会社役員、自営業	84	2	36	16	28
	100.0	2.4	42.9	19.0	33.3
会社員・団体職員（正規雇用）	187	1	86	34	66
	100.0	0.5	46.0	18.2	35.3
派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託	164	3	54	21	84
	100.0	1.8	32.9	12.8	51.2
公務員	35	0	18	7	10
	100.0	0.0	51.4	20.0	28.6
学生	15	1	4	5	5
	100.0	6.7	26.7	33.3	33.3
無職	220	8	57	42	109
	100.0	3.6	25.9	19.1	49.5
1～7以外	36	1	11	7	15
	100.0	2.8	30.6	19.4	41.7

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

問8 あなたは、川島町にこれからも住みつづけたいと思いますか。（1つに○）

- 川島町にこれからも住み続けたいかは、「どちらかといえば住みつづけたい」42.5%が最も多く、次いで「ずっと住みつづけたい」31.0%、「いずれは他の地域に転出したい」17.8%と続く。



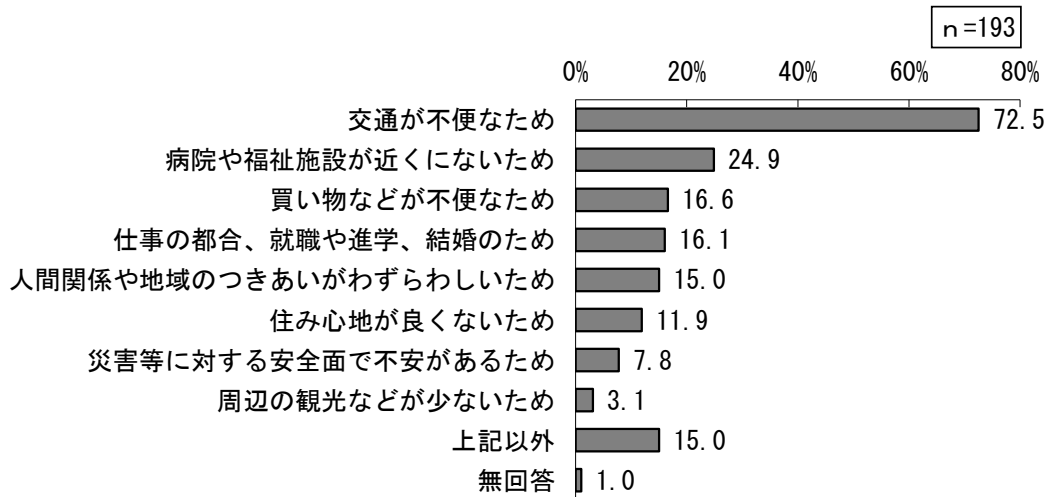
- 年齢別でもみて全体結果と概ね同様の傾向だが、10歳代～20歳代では“転出意向”（いずれは他の地域に転出したい+他の地域に転出したい）が5割を超える。

	合計	ずっと住みつづけたい	どちらかといえば住みつづけたい	いずれは他の地域に転出したい	他の地域に転出したい
全体	805	252	342	143	50
	100.0	31.3	42.5	17.8	6.2
18歳～19歳	9	0	3	4	2
	100.0	0.0	33.3	44.4	22.2
20歳～24歳	25	2	10	12	1
	100.0	8.0	40.0	48.0	4.0
25歳～29歳	29	4	9	12	4
	100.0	13.8	31.0	41.4	13.8
30歳～34歳	42	6	20	11	5
	100.0	14.3	47.6	26.2	11.9
35歳～39歳	51	10	25	11	4
	100.0	19.6	49.0	21.6	7.8
40歳～44歳	68	13	34	17	3
	100.0	19.1	50.0	25.0	4.4
45歳～49歳	53	10	27	10	5
	100.0	18.9	50.9	18.9	9.4
50歳～54歳	71	19	30	11	9
	100.0	26.8	42.3	15.5	12.7
55歳～59歳	88	24	33	22	7
	100.0	27.3	37.5	25.0	8.0
60歳～64歳	123	45	62	12	3
	100.0	36.6	50.4	9.8	2.4
65歳～69歳	170	79	63	15	7
	100.0	46.5	37.1	8.8	4.1
70歳以上	72	39	23	6	0
	100.0	54.2	31.9	8.3	0.0

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

付問 問8で「3~4」に○をつけた方のみお答えください。
 その主な理由は何ですか。（主なもの2つまでに○）

- 他の地域に転出したい理由は、「交通が不便なため」72.5%が最も多く、次いで「病院や福祉施設が近くにないため」24.9%、「買い物などが不便なため」16.6%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

問9 川島町の各分野の取り組みについてどのように感じていますか。（項目ごと1つに○）

- 川島町の各分野の取り組みについての満足度は、「19 公共交通の充実」の「大いに不満」35.5%が最も多い。その他の項目は「ふつう」が最も多い。
- 満足度（とても満足+ある程度満足）が不満度（やや不満+大いに不満）を10ポイント以上、上回る取り組みは「1 健康づくり」「10 ごみ分別収集の取り組み」「16 水道水の供給状況」。

（属性別）

- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向であるが、次の項目で特徴がみられる。
- 「4 保育サービスや子育て支援の充実」では居住歴5年以上10年未満の不満度が5割と多い。
- 「5 子どもの遊び場や児童施設の整備」では10歳代、40歳代前半の不満度が6~7割台と多い。
- 「10 ごみ分別収集の取り組み」では学生の満足度が6割と多い。
- 「12 公園・緑地などの設置や整備」では10歳代の不満度が5割と多い。
- 「15 住宅地、商業地、工業地など適正な土地利用のバランス」では40歳代前半、三保谷、居住歴5年以上10年未満、年収500万円台、1,000万円以上で不満度が5割と多い。
- 「18 生活道路、歩道など道路の整備」では40歳代後半~50歳代前半、居住歴5年以上10年未満、年収500万円台で不満度が6割と多い。
- 「24 観光客誘致の取り組み」では30歳代、居住歴5年以上10年未満、年収500万円台以上の不満度が6~7割台と多い。
- 「25 企業誘致など、町の就労場所の確保」では居住歴5年以上10年未満、年収500万円台の不満度が6割と多い。
- 「28 町のスポーツ施設の整備」と「29 スポーツ振興への取り組み」では10歳代の不満度が6~7割と多い。

※網掛けは各項目の第1位
(n=805)

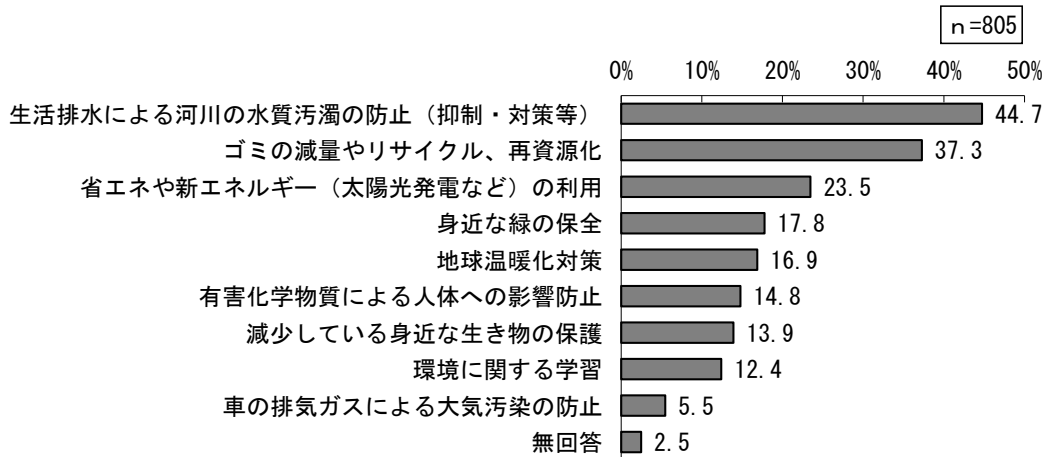
	とても満足	ある程度満足	ふつう	やや不満	大いに不満	無回答
(1) 保健・医療・福祉						
1 健康づくり	2.4	21.0	63.7	7.3	1.9	3.7
2 地域の福祉ボランティア活動	1.4	11.2	67.5	12.7	2.5	4.8
3 バリアフリーのまちづくり	0.1	6.2	55.3	25.2	7.3	5.8
4 保育サービスや子育て支援の充実	1.5	9.9	51.4	22.7	8.3	6.1
5 子どもの遊び場や児童施設の整備	1.4	8.0	38.3	33.2	13.3	6.0
6 障がいのある方でも安心して生活できる環境の整備	1.0	5.2	50.6	29.6	8.9	4.7
7 高齢者でも安心して生活できる環境の整備	0.9	6.1	47.0	30.2	11.9	4.0
8 青少年が健やかに育つための取り組み	0.7	4.1	58.9	22.9	8.4	5.0
(2) 自然環境・生活環境						
9 地球温暖化対策	0.9	6.5	69.1	13.8	3.2	6.6
10 ごみ分別収集の取り組み	4.8	32.5	47.8	10.1	2.2	2.5
11 環境保全対策の推進	1.1	8.9	70.6	11.4	2.7	5.2
12 公園・緑地などの設置や整備	2.5	14.0	47.3	24.1	8.2	3.9
13 大きな河川の整備	1.1	12.5	59.8	16.9	5.1	4.6
14 用水路・排水路の整備	0.6	10.2	43.6	28.4	13.2	4.0
(3) 都市基盤・土地利用						
15 住宅地、商業地、工業地など適正な土地利用のバランス	0.2	7.1	48.2	28.1	10.9	5.5
16 水道水の供給状況	7.1	23.5	56.3	6.7	2.7	3.7
17 汚水処理の整備	2.9	15.7	54.5	16.9	6.1	4.0
18 生活道路、歩道など道路の整備	1.4	10.1	37.8	35.4	12.5	2.9
19 公共交通の充実	0.7	3.0	25.8	31.8	35.5	3.1
(4) 農業・商業・工業・観光						
20 農地の適正な保全	0.6	7.1	63.7	17.5	5.1	6.0
21 川島町の特産品の開発	1.5	11.3	55.0	20.9	6.7	4.6
22 川島インターチェンジを活かした商工業の振興	2.7	16.5	41.7	25.6	8.9	4.5

※網掛けは各項目の第1位
(n=805)

	とても満足	ある程度満足	ふつう	やや不満	大いに不満	無回答
23 既存の商工業の振興	1.0	4.5	54.3	26.0	8.3	6.0
24 観光客誘致の取り組み	0.1	3.2	40.1	32.7	18.6	5.2
25 企業誘致など、町の就労場所の確保	0.2	7.2	44.1	28.9	14.2	5.3
(5) 生涯学習・教育						
26 公民館など社会教育施設の整備	1.0	7.6	62.9	17.6	6.7	4.2
27 町（公民館）主催の教室・講座	1.0	9.9	63.7	16.4	4.8	4.1
28 町のスポーツ施設の整備	1.4	8.0	56.8	22.1	7.3	4.5
29 スポーツ振興への取り組み	1.0	7.8	61.7	18.6	6.1	4.7
30 町の文化活動の振興	0.9	6.3	69.4	14.5	4.2	4.6
31 国際交流活動の推進	0.6	4.5	63.1	20.4	6.0	5.5
(6) 自治・コミュニティ						
32 地域におけるコミュニティ活動	0.9	9.1	71.1	11.9	2.6	4.5
33 地域における防犯・防災体制	1.2	11.8	61.4	17.3	4.2	4.1
34 男女共同参画社会の実現に向けた女性参画	0.4	3.6	70.2	14.9	5.0	6.0
35 人権教育の推進	0.5	4.8	73.8	10.9	3.9	6.1
36 交通安全施設の整備	0.4	5.8	59.8	22.1	6.5	5.5
37 交通安全への取り組み	0.6	8.0	60.6	20.0	6.3	4.5
(7) 行財政運営						
38 まちづくりへの町民参加の促進	0.7	5.2	63.1	18.9	6.8	5.2
39 広報やホームページによる行政情報の提供	2.5	15.7	63.5	10.3	3.4	4.7
40 町民サービスの向上	1.0	7.8	59.3	20.1	7.1	4.7
41 周辺市町村との広域連携	0.9	5.3	62.2	18.5	7.6	5.5

問10 自然環境・生活環境の取り組みで、次のうち、重点的に進めていくべき施策は何だと思いますか。（主なもの2つまで〇）

- 自然環境・生活環境について重点的に進めていくべき施策は、「生活排水による河川の水質汚濁の防止」44.7%が最も多く、次いで「ゴミの減量やリサイクル、再資源化」37.3%、「省エネや新エネルギーの利用」23.5%と続く。

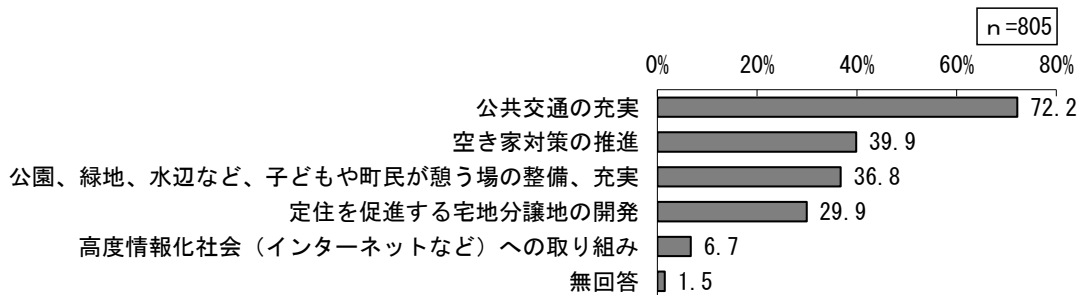


- 属性別でも上位3項目は全体結果と同様の傾向である。
- 経年比較でも平成23年度と上位3項目は同じである。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=805)	生活排水による河川の水質汚濁の防止 (抑制・対策等) 44.7	ゴミの減量やリサイクル、再資源化 37.3	省エネや新エネルギー (太陽光発電など)の 利用 23.5
平成23年度 (n=912)	生活排水による河川の水質汚濁の防止 (抑制・対策等) 47.1	省エネや新エネルギー (太陽光発電など)の 利用 37.0	ゴミの減量やリサイクル、再資源化 35.3
平成20年度 (n=922)	生活排水による河川の水質汚濁の防止 (抑制・対策等) 51.1	ゴミの減量やリサイクル、再資源化 40.6	地球温暖化対策 34.7

問11 都市基盤の取り組みで、次のうち、重点的に進めていくべき施策は何だと思いますか。（主なもの2つまでに○）

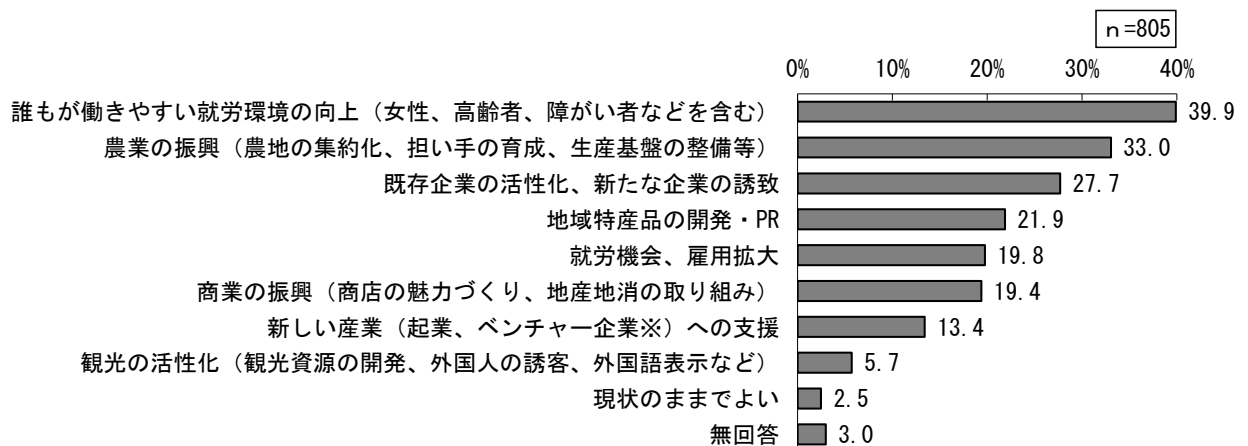
- 都市基盤について重点的に進めていくべき施策は、「公共交通の充実」72.2%が最も多く、次いで「空き家対策の推進」39.9%、「公園、緑地、水辺など、子どもや市民が憩う場の整備、充実」36.8%と続く。



- 属性別でも上位項目は全体結果と概ね同様の傾向である。

問12 産業振興、雇用拡大の取り組みで、次のうち、重点的に進めていくべき施策は何だと思いますか。（主なもの2つまでに○）

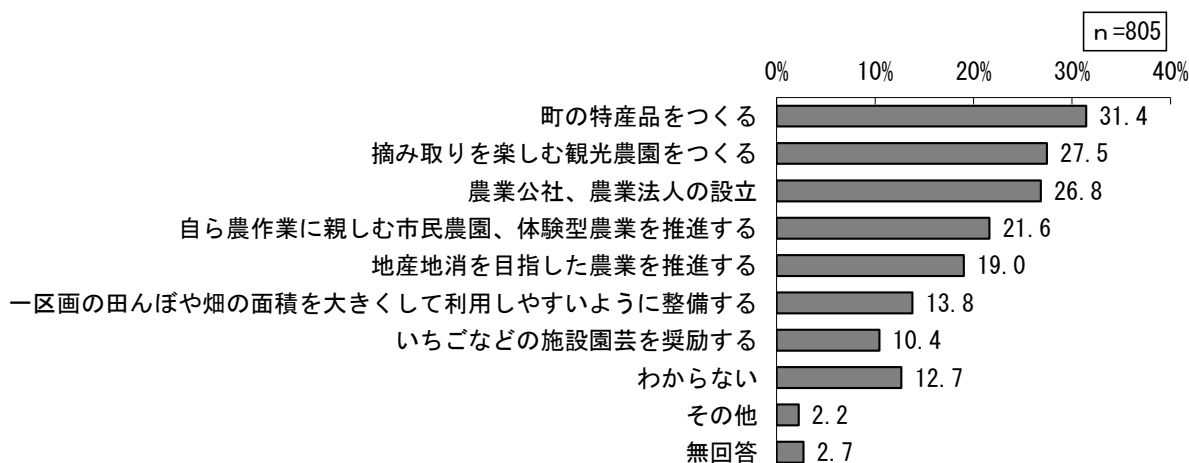
- 産業振興、雇用拡大について重点的に進めていくべき施策は、「誰もが働きやすい就労環境の向上」39.9%が最も多く、次いで「農業の振興」33.0%、「既存企業の活性化、新たな企業の誘致」27.7%と続く。



- 属性別でも上位項目は全体結果と概ね同様の傾向である。

問13 町の農業を振興するために、どのような農業経営を進めるべきだと思いますか。
(主なもの2つまでに○)

- 町の農業振興のための取り組みは、「町の特産品をつくる」31.4%が最も多く、次いで「摘み取りを楽しむ観光農園をつくる」27.5%、「農業公社、農業法人の設立」26.8%と続く。



- 属性別でも上位項目は全体結果と概ね同様の傾向である。
- 経年比較(※)では、「町の特産品をつくる」と「摘み取りを楽しむ観光農園をつくる」が平成20年度と同じく、再び上位に挙げられた。

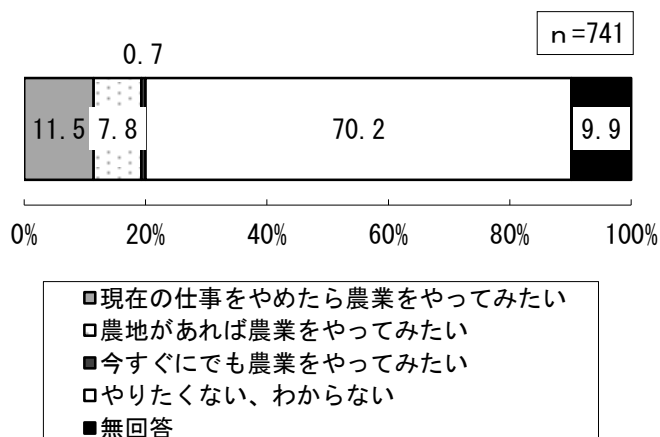
	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=805)	町の特産品をつくる 31.4	摘み取りを楽しむ観光農園をつくる 27.5	農業公社、農業法人の設立 26.8
平成23年度 (n=912)	自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する 33.9	一区画の田んぼや畑の面積を大きくして利用しやすいように整備する 28.6	いちごなどの施設園芸を奨励する 26.9
平成20年度 (n=922)	町の特産品をつくる 45.2	摘み取りを楽しむ観光農園をつくる 26.8	自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する 23.2

※平成27年度の第3位「農業公社、農業法人の設立」は前回までの選択肢にはない項目

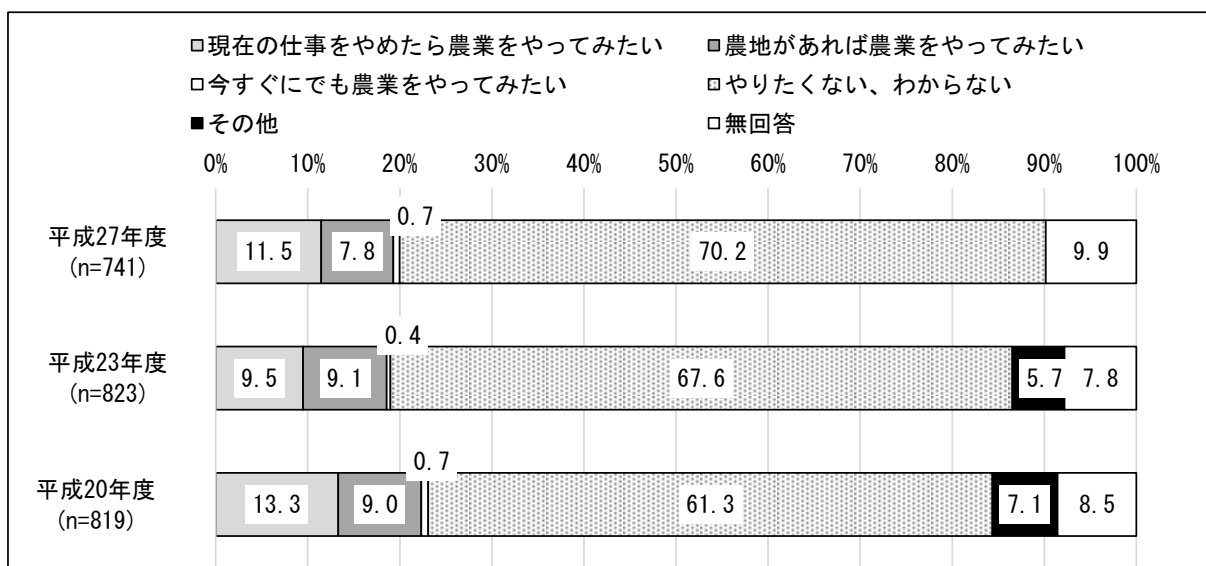
◆ 問 14 及び付問のみ、職業が農業以外の方におうかがいします。

問14 あなたは、新たに農業に就いてみたいという考えはありますか。（1つに○）

- 新たに農業に就いてみたいかは、「やりたくない、わからない」70.2%が最も多く、次いで「現在の仕事をやめたら農業をやってみたい」11.5%、「農地があれば農業をやってみたい」7.8%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
 ○ 経年比較（※）でも、農業への就業意欲に大きな変化はみられない。

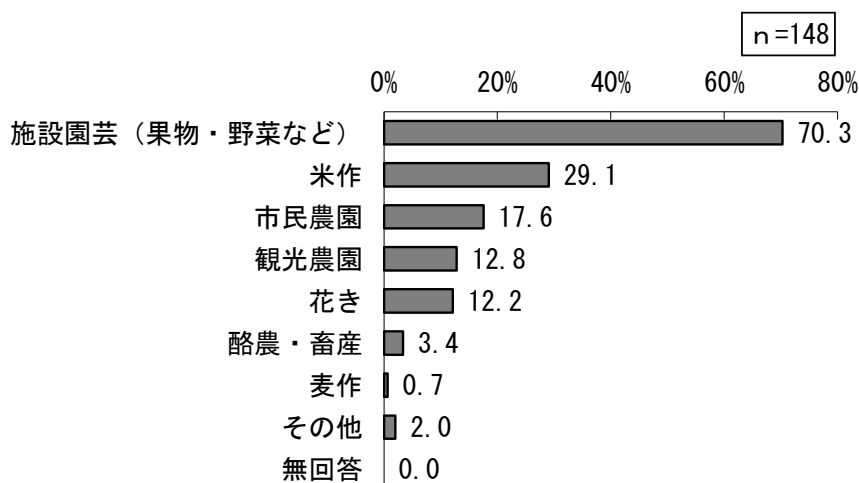


※平成27年度に「その他」の選択肢はない

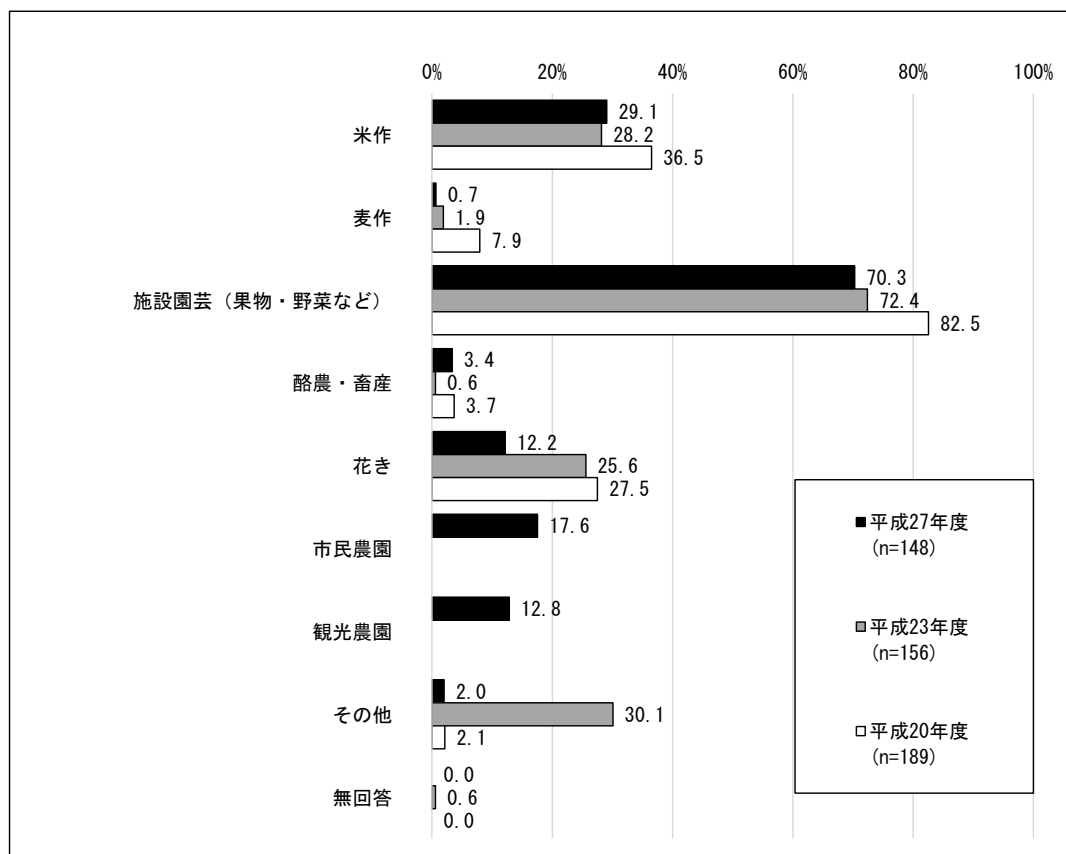
付問 問 14 で「1～3（農業をやってみたい）」に○をつけた方のみお答えください。

① やってみたい農業は何ですか。（主なもの2つまでに○）

- やってみたい農業は、「施設園芸（果物・野菜など）」70.3%が最も多く、次いで「米作」29.1%、「市民農園」17.6%と続く。



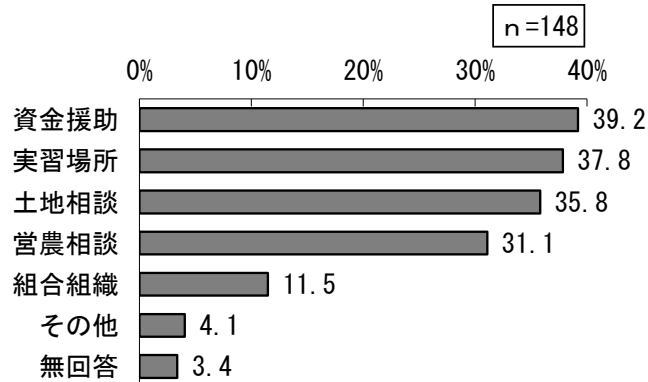
- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
- 経年比較（※）でも、「施設園芸（果物・野菜など）」が多い傾向は同じである。



※平成27年度の「市民農園」「観光農園」は前回までの選択肢にはない項目

②やってみたい農業に必要なことは何ですか。（主なもの2つまでに○）

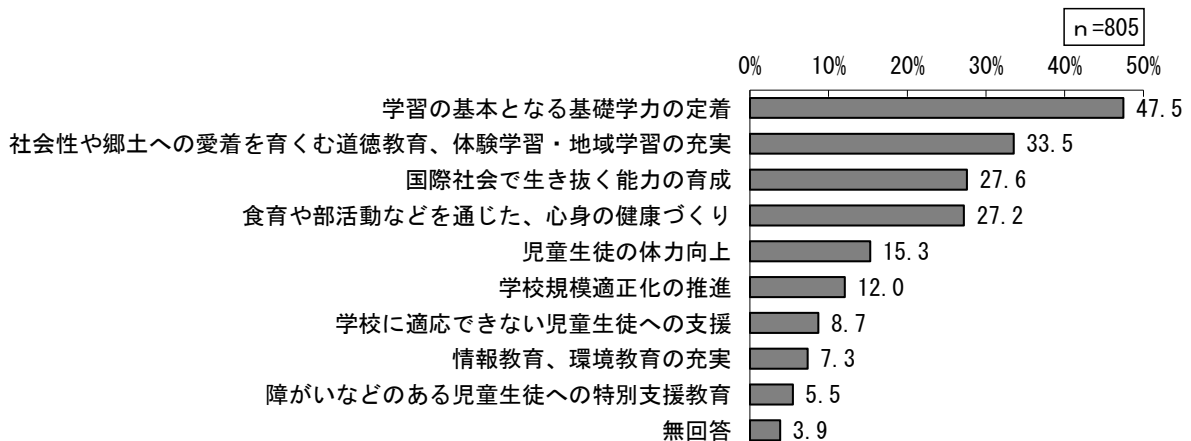
- やってみたい農業に必要なことは、「資金援助」39.2%が最も多く、次いで「実習場所」37.8%、「土地相談」35.8%と続く。



- 属性別で見ると必要なことはそれぞれの属性で異なり、一定の傾向はみられない。

問15 町の学校教育で、次のうち、重点的に進めていくべきものは何だと思えますか。（主なもの2つまで○）

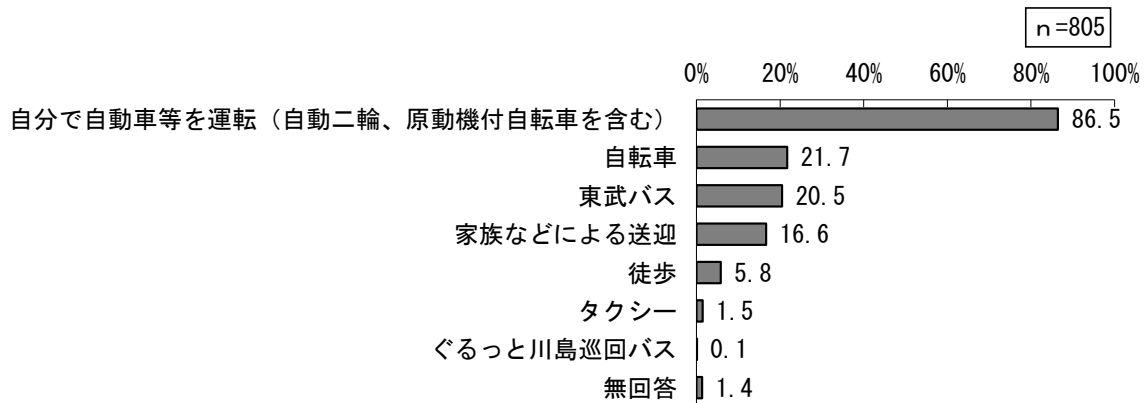
- 町の学校教育で、重点的に進めていくべきものは、「学習の基本となる基礎学力の定着」47.5%が最も多く、次いで「社会性や郷土への愛着を育む道德教育、体験学習・地域学習の充実」33.5%、「国際社会で生き抜く能力の育成」27.6%と続く。



- 属性別で見ても上位項目は全体結果と概ね同様の傾向である。

問16 あなたは、日常どのような手段で外出（移動）しますか。（主なもの2つまでに○）

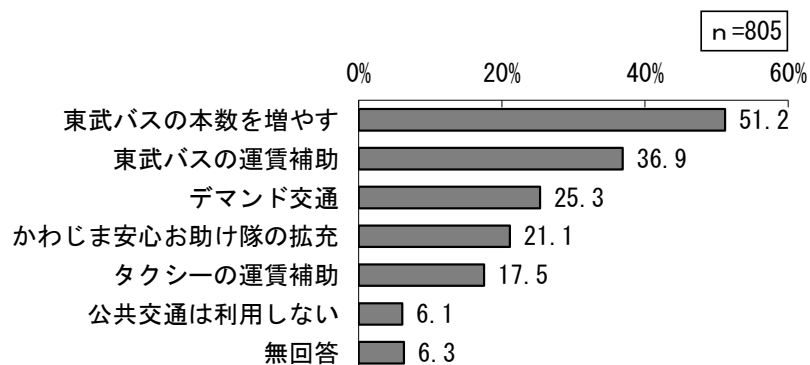
- 日常、外出する手段は、「自分で自動車等を運転」86.5%が最も多く、次いで「自転車」21.7%、「東武バス」20.5%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向であるが、10歳代では「自転車」と「家族などによる送迎」が多い。（自動車運転免許を取得していない人がいると想定される）

問17 町では、平成25年12月から1年間、町民バス／リレーバスをテスト運行しましたが、一定の利用者が見込まなかったため、テスト運行を終了しました。今後、町の公共交通等の充実のために必要なのは、どのような取り組みだと思いますか。（主なもの2つまでに○）

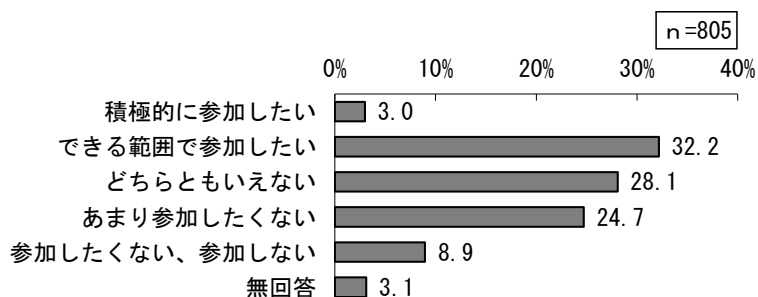
- 今後、町の公共交通等の充実のために必要な取り組みは、「東武バスの本数を増やす」51.2%が最も多く、次いで「東武バスの運賃補助」36.9%、「デマンド交通」25.3%と続く。



- 属性別でも上位項目は全体結果と概ね同様の傾向である。

問18 あなたは地域活動やボランティア活動などに参加したいですか。（1つに○）

- 地域活動やボランティア活動への参加について、「できる範囲で参加したい」32.2%が最も多く、次いで「どちらともいえない」28.1%、「あまり参加したくない」24.7%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
- 年齢別で見ると、20歳代前半で、参加意向あり（積極的に参加したい+できる範囲で参加したい）が4割と多く、20歳代後半と70歳以上では参加意向なし（あまり参加したくない+参加したくない、参加しない）が5割と多い。

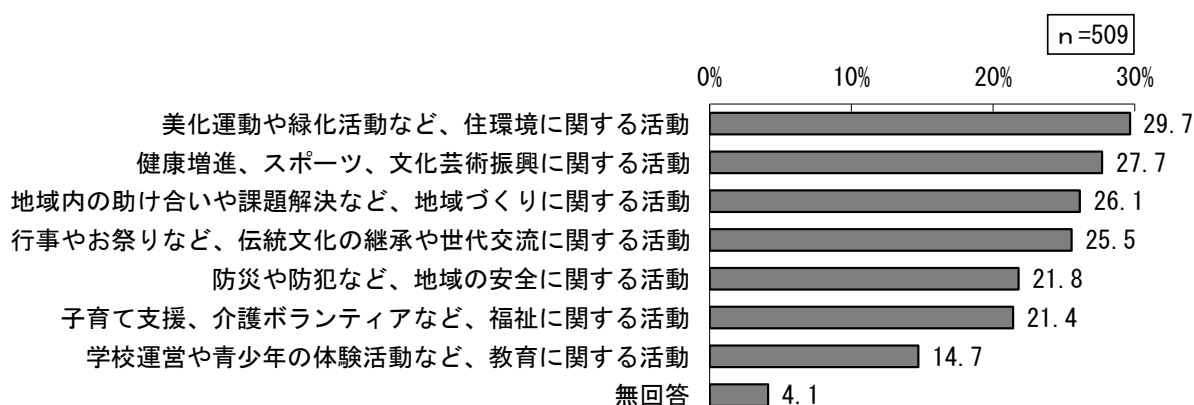
	合計	積極的に参加したい	できる範囲で参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	参加したくない、参加しない
全体	805	24	259	226	199	72
	100.0	3.0	32.2	28.1	24.7	8.9
18歳～19歳	9	3	1	1	1	3
	100.0	33.3	11.1	11.1	11.1	33.3
20歳～24歳	25	0	11	6	6	2
	100.0	0.0	44.0	24.0	24.0	8.0
25歳～29歳	29	0	6	8	10	5
	100.0	0.0	20.7	27.6	34.5	17.2
30歳～34歳	42	0	10	17	11	4
	100.0	0.0	23.8	40.5	26.2	9.5
35歳～39歳	51	2	17	20	6	5
	100.0	3.9	33.3	39.2	11.8	9.8
40歳～44歳	68	3	15	24	22	4
	100.0	4.4	22.1	35.3	32.4	5.9
45歳～49歳	53	1	18	14	13	6
	100.0	1.9	34.0	26.4	24.5	11.3
50歳～54歳	71	2	22	25	17	3
	100.0	2.8	31.0	35.2	23.9	4.2
55歳～59歳	88	5	29	23	25	5
	100.0	5.7	33.0	26.1	28.4	5.7
60歳～64歳	123	4	44	31	27	13
	100.0	3.3	35.8	25.2	22.0	10.6
65歳～69歳	170	4	63	46	35	11
	100.0	2.4	37.1	27.1	20.6	6.5
70歳以上	72	0	21	9	26	11
	100.0	0.0	29.2	12.5	36.1	15.3

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

付問 問 18で「1~3」に○をつけた方のみお答えください。

次のうち、どのような活動をしたいですか。（主なもの2つまでに○）

- 地域やボランティア活動への参加意向がある方のうち、やってみたい活動は「美化活動や緑化活動など、住環境に関する活動」29.7%が最も多く、次いで「健康増進、スポーツ、文化芸術振興に関する活動」27.7%、「地域内の助け合いや課題解決など、地域づくりに関する活動」26.1%と続く。



- 経年比較（※）では、前回と同じく、環境保全、生涯学習に関する活動が上位に挙げられた。前回の選択肢にはなかった地域づくりに関する活動が第3位に入っている。

	第1位	第2位	第3位
平成27年度 (n=509)	美化活動や緑化活動など 29.7	健康増進、スポーツ、文化芸術振興 27.7	地域づくりに関する活動 26.1
平成23年度 (n=912)	環境保全 12.1	生涯学習 11.3	保健・医療・福祉 11.0
平成20年度 (n=922)	保健・医療・福祉 12.6	生涯学習 10.6	子どもの健全育成 9.7

※平成27年度と前回までの調査とは対象者、選択肢が異なるため、参考データ

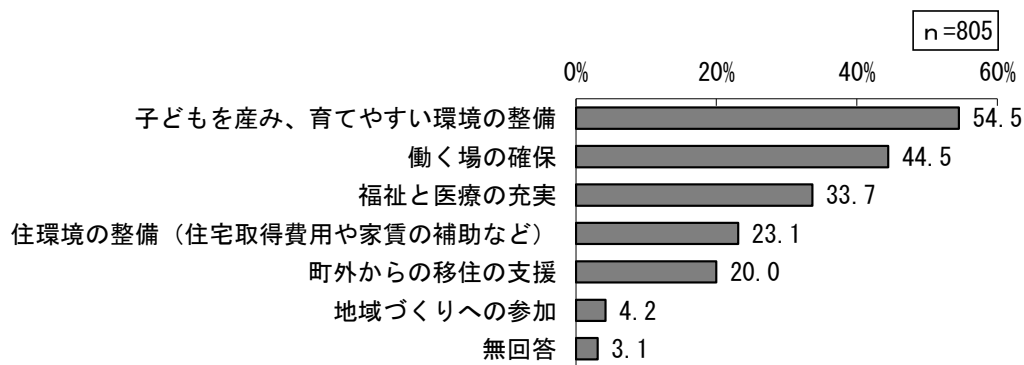
- 属性別でみると活動種目はそれぞれの属性で異なり、一定の傾向はみられない。
- なお、前問の結果で参加意向が比較的高い20歳代前半では「行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動」が最も多い。

	合計	地域内の助け合いや課題解決など、地域づくりに関する活動	行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動	学校運営や青少年の体験活動など、教育に関する活動	健康増進、スポーツ、文化芸術振興に関する活動	子育て支援、介護ボランティアなど、福祉に関する活動	美化運動や緑化活動など、住環境に関する活動	防災や防犯など、地域の安全に関する活動
全体	509	133	130	75	141	109	151	111
	100.0	26.1	25.5	14.7	27.7	21.4	29.7	21.8
18歳～19歳	5	0	2	3	3	2	0	0
	100.0	0.0	40.0	60.0	60.0	40.0	0.0	0.0
20歳～24歳	17	2	11	3	7	3	3	1
	100.0	11.8	64.7	17.6	41.2	17.6	17.6	5.9
25歳～29歳	14	2	5	3	4	4	3	1
	100.0	14.3	35.7	21.4	28.6	28.6	21.4	7.1
30歳～34歳	27	5	11	4	7	7	7	4
	100.0	18.5	40.7	14.8	25.9	25.9	25.9	14.8
35歳～39歳	39	5	14	6	14	11	9	11
	100.0	12.8	35.9	15.4	35.9	28.2	23.1	28.2
40歳～44歳	42	6	12	7	15	10	9	4
	100.0	14.3	28.6	16.7	35.7	23.8	21.4	9.5
45歳～49歳	33	11	8	10	6	9	9	4
	100.0	33.3	24.2	30.3	18.2	27.3	27.3	12.1
50歳～54歳	49	13	9	6	12	10	16	10
	100.0	26.5	18.4	12.2	24.5	20.4	32.7	20.4
55歳～59歳	57	16	13	8	12	15	17	12
	100.0	28.1	22.8	14.0	21.1	26.3	29.8	21.1
60歳～64歳	79	26	16	8	26	14	33	18
	100.0	32.9	20.3	10.1	32.9	17.7	41.8	22.8
65歳～69歳	113	41	21	11	24	18	32	36
	100.0	36.3	18.6	9.7	21.2	15.9	28.3	31.9
70歳以上	30	5	6	5	10	5	13	9
	100.0	16.7	20.0	16.7	33.3	16.7	43.3	30.0

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

問19 町の人口減少社会における取り組みとして、次のうち、特に重要な取り組みは何だと思えますか。（主なもの2つまでに○）

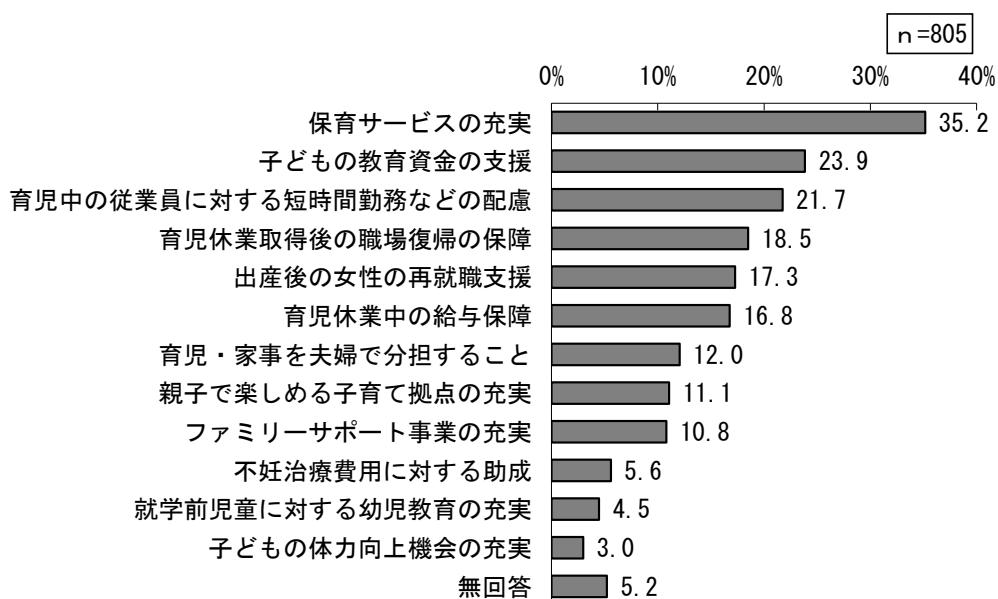
- 町の人口減少社会について、特に重要だと思う取り組みは、「子どもを産み、育てやすい環境の整備」54.5%が最も多く、次いで「働く場の確保」44.5%、「福祉と医療の充実」33.7%と続く。



- 属性別でも上位項目は全体結果と概ね同様の傾向である。

問20 子育て支援・少子化対策を進める上で、次のうち、どのような対策が効果的だと思えますか。（主なもの2つまでに○）

- 子育て支援・少子化対策を進める上で、効果的だと思う対策は、「保育サービスの充実」35.2%が最も多く、次いで「子どもの教育資金の支援」23.9%、「育児中の従業員に対する短時間勤務などの配慮」21.7%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。
- 年齢別で見ると、10歳代～20歳代は「保育サービスの充実」と「育児休業中の給与保障」が他に比べて多い。
- 40歳代では「保育サービスの充実」と「子どもの教育資金の支援」が他に比べて多い。
- 年収別で見ると、500万円台と1,000万円以上では「保育サービスの充実」と「子どもの教育資金の支援」が他に比べて多い。

	合計	育児・家事を夫婦で分担すること	育児中の従業員に対する短時間勤務などの配慮	育児休業中の給与保障	育児休業取得後の職場復帰の保障	ファミリーサポート事業の充実	保育サービスの充実	出産後の女性の再就職支援	子どもの教育資金の支援	親子で楽しめる子育て拠点の充実
全体	805	97	175	135	149	87	283	139	192	89
	100.0	12.0	21.7	16.8	18.5	10.8	35.2	17.3	23.9	11.1
18歳～19歳	9	1	1	3	1	1	3	1	2	2
	100.0	11.1	11.1	33.3	11.1	11.1	33.3	11.1	22.2	22.2
20歳～24歳	25	4	9	10	1	1	10	4	4	0
	100.0	16.0	36.0	40.0	4.0	4.0	40.0	16.0	16.0	0.0
25歳～29歳	29	3	10	10	8	2	11	7	3	3
	100.0	10.3	34.5	34.5	27.6	6.9	37.9	24.1	10.3	10.3
30歳～34歳	42	4	9	6	4	1	10	15	13	5
	100.0	9.5	21.4	14.3	9.5	2.4	23.8	35.7	31.0	11.9
35歳～39歳	51	5	15	8	8	6	19	14	14	5
	100.0	9.8	29.4	15.7	15.7	11.8	37.3	27.5	27.5	9.8
40歳～44歳	68	4	7	11	9	5	29	7	27	13
	100.0	5.9	10.3	16.2	13.2	7.4	42.6	10.3	39.7	19.1
45歳～49歳	53	11	4	10	5	4	18	7	22	3
	100.0	20.8	7.5	18.9	9.4	7.5	34.0	13.2	41.5	5.7
50歳～54歳	71	6	15	11	13	10	26	11	17	12
	100.0	8.5	21.1	15.5	18.3	14.1	36.6	15.5	23.9	16.9
55歳～59歳	88	12	17	14	15	14	39	11	20	6
	100.0	13.6	19.3	15.9	17.0	15.9	44.3	12.5	22.7	6.8
60歳～64歳	123	16	28	22	22	12	40	30	22	17
	100.0	13.0	22.8	17.9	17.9	9.8	32.5	24.4	17.9	13.8
65歳～69歳	170	19	45	19	49	25	58	19	32	15
	100.0	11.2	26.5	11.2	28.8	14.7	34.1	11.2	18.8	8.8
70歳以上	72	12	15	9	14	5	18	12	15	8
	100.0	16.7	20.8	12.5	19.4	6.9	25.0	16.7	20.8	11.1
100万円未満	256	40	58	34	44	22	86	48	54	30
	100.0	15.6	22.7	13.3	17.2	8.6	33.6	18.8	21.1	11.7
100万円台	109	13	19	22	24	14	36	23	27	12
	100.0	11.9	17.4	20.2	22.0	12.8	33.0	21.1	24.8	11.0
200万円台	107	8	32	17	26	10	42	16	24	10
	100.0	7.5	29.9	15.9	24.3	9.3	39.3	15.0	22.4	9.3
300万円台	101	10	24	25	19	14	39	20	20	9
	100.0	9.9	23.8	24.8	18.8	13.9	38.6	19.8	19.8	8.9
400万円台	62	7	13	11	11	6	19	12	17	10
	100.0	11.3	21.0	17.7	17.7	9.7	30.6	19.4	27.4	16.1
500万円台	40	4	8	4	8	4	13	2	16	6
	100.0	10.0	20.0	10.0	20.0	10.0	32.5	5.0	40.0	15.0
600万円～1,000万円台	70	11	8	13	12	12	31	8	15	4
	100.0	15.7	11.4	18.6	17.1	17.1	44.3	11.4	21.4	5.7
1,000万円以上	14	0	6	2	1	2	6	1	6	2
	100.0	0.0	42.9	14.3	7.1	14.3	42.9	7.1	42.9	14.3

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（全体結果10%以上の項目のみ表示）

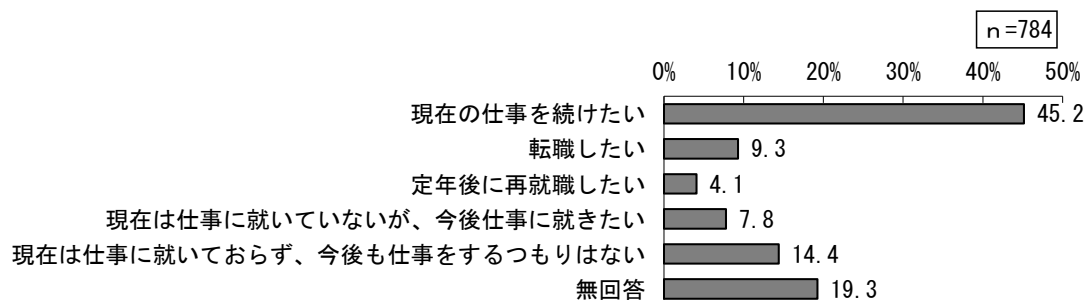
※問21 は自由意見欄のため、別冊に掲載。

3 就業について（社会人の方）

◆ 社会人の方（学生以外）におうかがいします。

問22 就業について、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。（1つに○）

- 就業について考えの近いものは、「現在の仕事を続けたい」45.2%が最も多く、次いで「現在は仕事に就いておらず、今後も仕事をするつもりはない」14.4%、「転職したい」9.3%と続く。



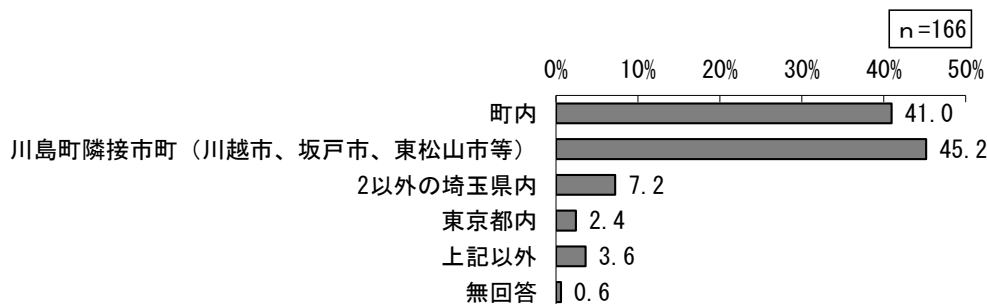
- 属性別でみると、「現在の仕事を続けたい」は64歳以下で多い。
- 「転職したい」は20歳代前半～40歳代前半で20%前後みられる。

	合計	現在の仕事を続けたい	転職したい	定年後に再就職したい	現在は仕事に就いていないが、今後仕事に就きたい	現在は仕事に就いておらず、今後も仕事をするつもりはない	無回答
全体	784	354	73	32	61	113	151
	100.0	45.2	9.3	4.1	7.8	14.4	19.3
18歳～19歳	2	1	0	0	1	0	0
	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
20歳～24歳	17	9	5	0	2	0	1
	100.0	52.9	29.4	0.0	11.8	0.0	5.9
25歳～29歳	28	18	6	0	2	0	2
	100.0	64.3	21.4	0.0	7.1	0.0	7.1
30歳～34歳	41	20	11	1	4	0	5
	100.0	48.8	26.8	2.4	9.8	0.0	12.2
35歳～39歳	51	28	10	1	10	1	1
	100.0	54.9	19.6	2.0	19.6	2.0	2.0
40歳～44歳	67	36	15	2	8	3	3
	100.0	53.7	22.4	3.0	11.9	4.5	4.5
45歳～49歳	53	31	5	2	7	2	6
	100.0	58.5	9.4	3.8	13.2	3.8	11.3
50歳～54歳	71	40	10	8	5	3	5
	100.0	56.3	14.1	11.3	7.0	4.2	7.0
55歳～59歳	87	48	5	8	7	5	14
	100.0	55.2	5.7	9.2	8.0	5.7	16.1
60歳～64歳	123	50	5	8	9	23	28
	100.0	40.7	4.1	6.5	7.3	18.7	22.8
65歳～69歳	169	51	0	2	3	52	61
	100.0	30.2	0.0	1.2	1.8	30.8	36.1
70歳以上	72	21	0	0	3	24	24
	100.0	29.2	0.0	0.0	4.2	33.3	33.3

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位

付問ア 問22で「2~4」（就業希望あり）に○をつけた方のみお答えください。
 就業の場所はどこを希望しますか。（1つに○）

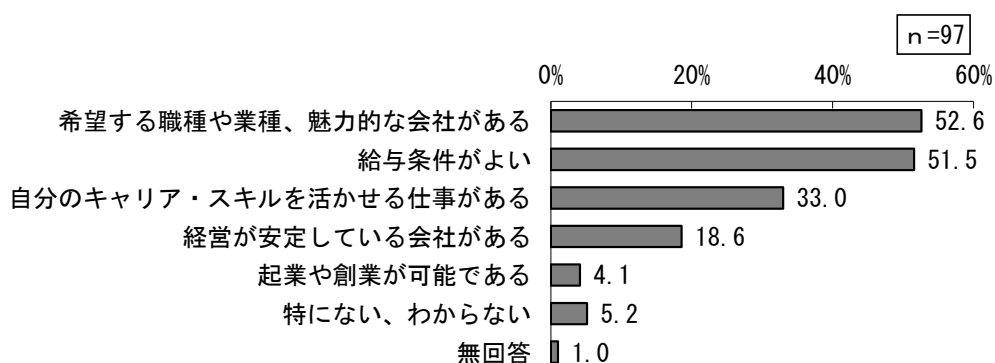
- 転職、定年後の再就職、今後の就業の希望場所は、「川島町隣接市町」45.2%が最も多く、次いで「町内」41.0%、「2（川島町隣接市町）以外の埼玉県内」7.2%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向であり、上位2項目が多い。

付問イ 付問アで「2~5（町内以外）」に○をつけた方のみお答えください。
 もし、町内で就業するとしたら、条件として何を重視しますか。（主なもの2つまでに○）

- 町内で就業する場合、条件として重視することは、「希望する職種や業種、魅力的な会社がある」52.6%が最も多く、次いで「給与条件がよい」51.5%、「自分のキャリア・スキルを活かせる仕事がある」33.0%と続く。



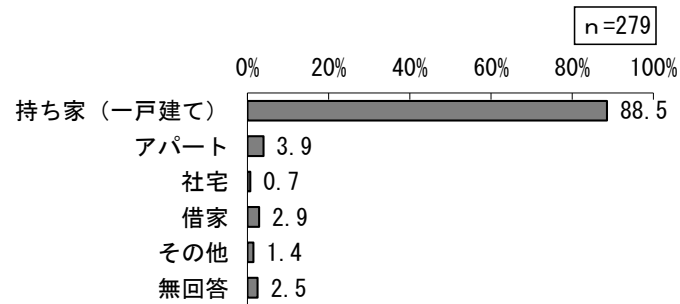
- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向であり、上位2項目が多い。

4 現在の居住状況について（18歳～49歳の方）

◆ 18歳～49歳の方におうかがいします。

問23 現在の居住している状況を教えてください。

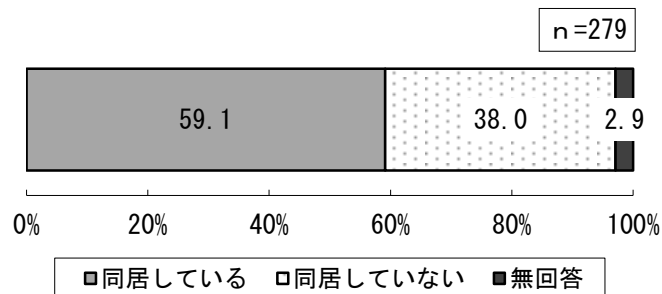
○ 現在の居住状況は、「持ち家（一戸建て）」88.5%が最も多い。



○ 属性別でもみて全体結果と概ね同様の傾向である。

問24 あなたは親と同居していますか。(1つに○)

○ 親との同居の有無は、「同居している」59.1%、「同居していない」38.0%。



○ 年齢別でみると、30歳代後半～40歳代前半では「同居していない」が5割を占める。

	合計	同居している	同居していない	無回答
全体	279	165	106	8
	100.0	59.1	38.0	2.9
18歳～19歳	9	7	0	2
	100.0	77.8	0.0	22.2
20歳～24歳	25	23	1	1
	100.0	92.0	4.0	4.0
25歳～29歳	29	21	7	1
	100.0	72.4	24.1	3.4
30歳～34歳	42	29	13	0
	100.0	69.0	31.0	0.0
35歳～39歳	51	25	26	0
	100.0	49.0	51.0	0.0
40歳～44歳	68	31	36	1
	100.0	45.6	52.9	1.5
45歳～49歳	53	28	22	3
	100.0	52.8	41.5	5.7

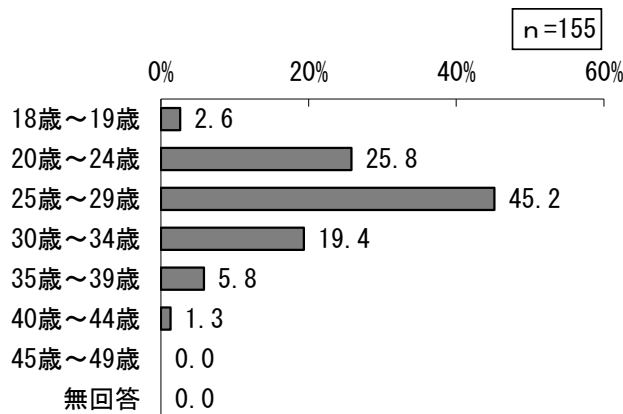
上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位

5 結婚・出産・子育てについて（既婚者の方）

- ◆ 18歳～49歳かつ現在結婚している方におうかがいします。（事実婚の方も含みます。）

問25 はじめて結婚されたのは何歳の時ですか。（1つに○）

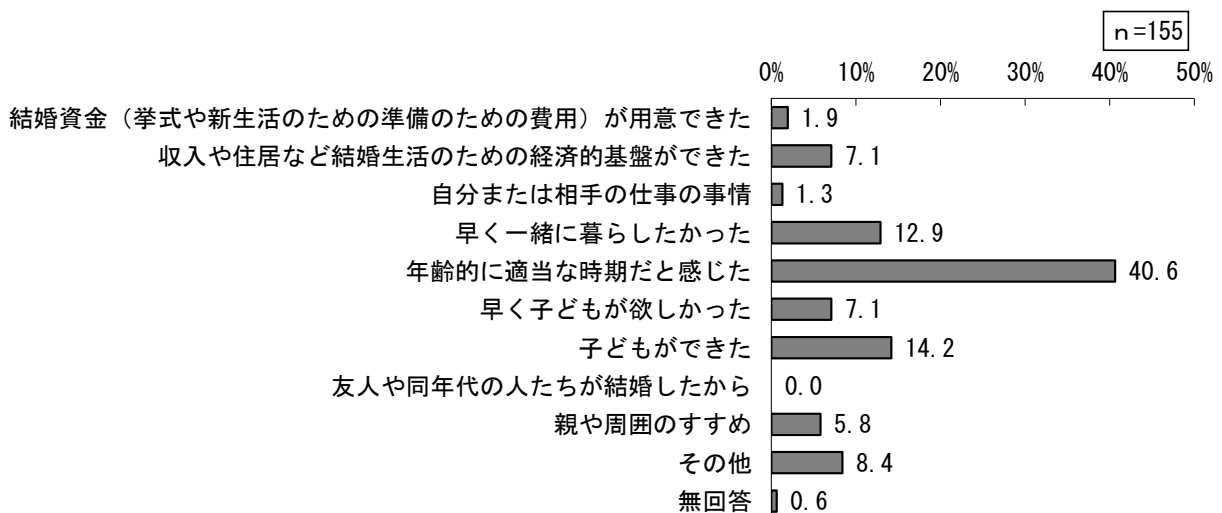
- 初婚の年齢は、「25歳～29歳」45.2%が最も多く、次いで「20歳～24歳」25.8%、「30歳～34歳」19.4%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

問26 あなたが、結婚を決めた一番のきっかけ、または理由は何ですか。（1つに○）

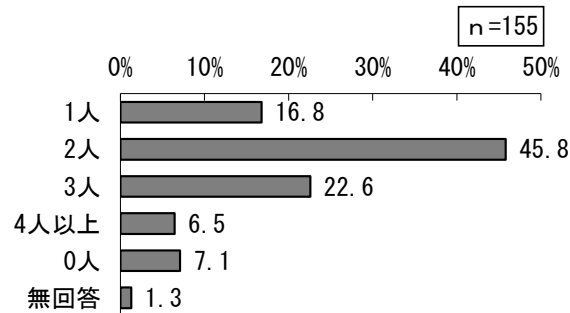
- 結婚の決め手・理由は、「年齢的に適当な時期だと感じた」40.6%が最も多く、次いで「子どもができた」14.2%、「早く一緒に暮らしたかった」12.9%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

問27 今のお子さんと今後生む予定のお子さんを合わせると何人になりますか。(1つに○)

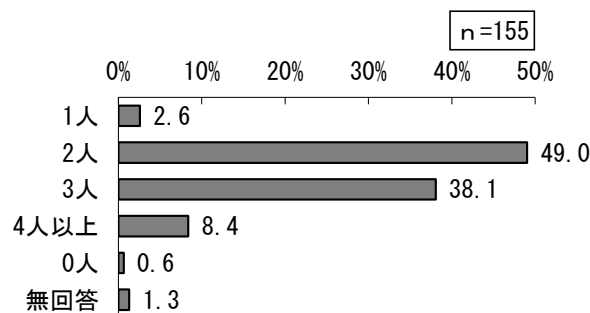
- 現在の子どもの人数と、今後生む予定の子どもの人数を合わせると何人になるかは、「2人」45.8%が最も多く、次いで「3人」22.6%、「1人」16.8%と続く。現実的な1人あたり平均は「2.05人」。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

問28 あなたにとって理想的なお子さんの数は何人ですか。(1つに○)

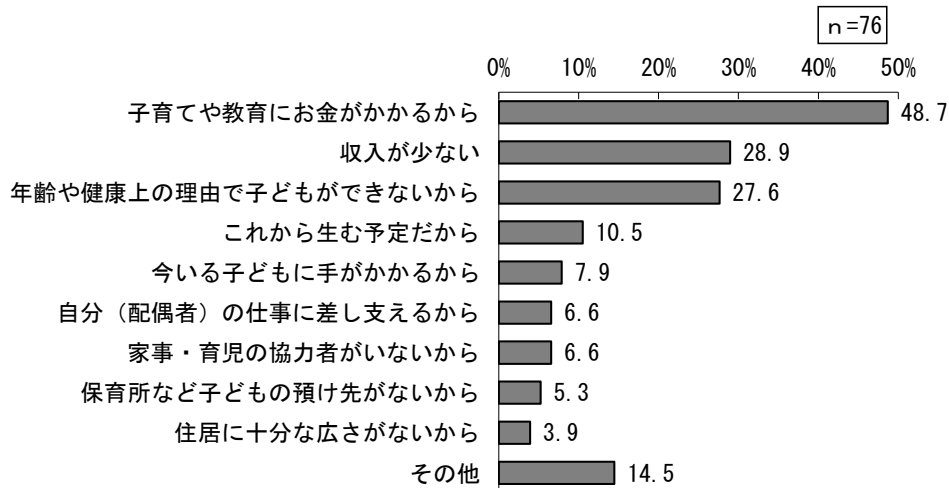
- 理想的な子どもの人数は、「2人」49.0%が最も多く、次いで「3人」38.1%、「4人以上」8.4%と続く。理想とする1人あたり平均は「2.52人」。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

問29 (理想なお子さんの数より、実際のお子さんの数が少ない方のみお答えください) 理想よりも少ない主な理由は何ですか。(主なもの2つまでに○)

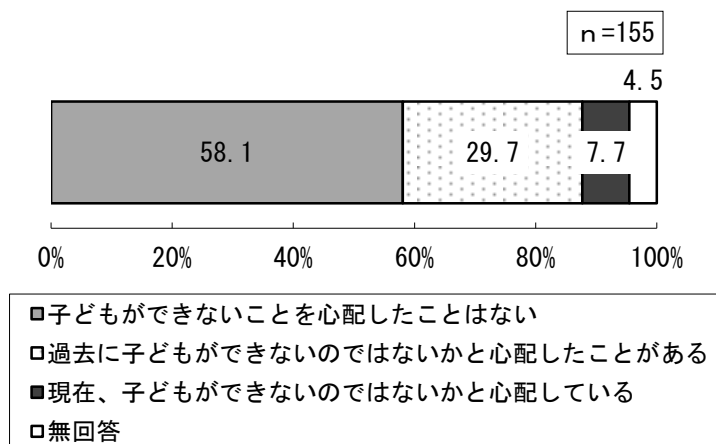
- 理想よりも子どもの人数が少ない主な理由は、「子育てや教育にお金がかかるから」48.7%が最も多く、次いで「収入が少ない」28.9%、「年齢や健康上の理由で子どもができないから」27.6%と続く。



- 属性別でみると主な理由はそれぞれの属性で異なり、一定の傾向はみられない。

問30 あなた方ご夫婦は、不妊について不安や悩みはありますか。(1つに○)

- 不妊について不安や悩みがあるかは、「子どもができないことを心配したことはない」58.1%、「過去に子どもができないのではないかと心配したことがある」29.7%、「現在、子どもができないのではないかと心配している」7.7%。

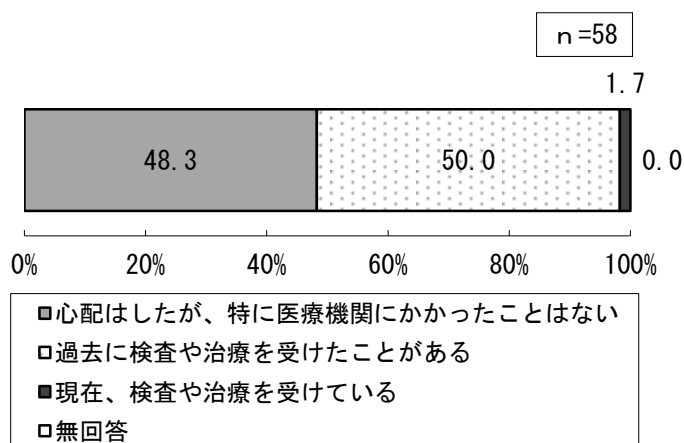


- 属性別でみても全体結果と概ね同様の傾向である。

付問ア 問30で「2～3（心配したことがある）」に○をつけた方のみお答えください。

不妊治療の経験はありますか。（1つに○）

- 不妊治療の経験の有無は、「過去に検査や治療を受けたことがある」50.0%、「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」48.3%、「現在、検査や治療を受けている」1.7%。



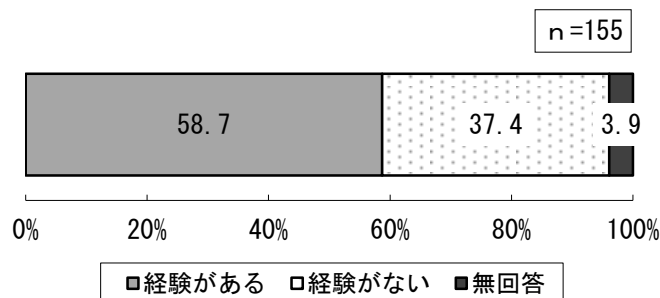
- 性別でみると「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」は女性がやや多い。
- 年齢別でみると30歳代後半～40歳代で「過去に検査や治療を受けたことがある」がやや多くみられる。

	合計	心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない	過去に検査や治療を受けたことがある	現在、検査や治療を受けている
全体	58	28	29	1
	100.0	48.3	50.0	1.7
男性	18	7	10	1
	100.0	38.9	55.6	5.6
女性	37	19	18	0
	100.0	51.4	48.6	0.0
18歳～19歳	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳～24歳	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0
25歳～29歳	3	3	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0
30歳～34歳	9	5	4	0
	100.0	55.6	44.4	0.0
35歳～39歳	14	6	7	1
	100.0	42.9	50.0	7.1
40歳～44歳	16	5	11	0
	100.0	31.3	68.8	0.0
45歳～49歳	16	9	7	0
	100.0	56.3	43.8	0.0

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（無回答は非表示）

問31 妊娠、出産または育児をきっかけに本人または配偶者が仕事を辞めた経験がありますか。(1つに○)

○ 妊娠・出産・育児をきっかけに本人または配偶者が仕事を辞めた経験があるかは、「経験がある」58.7%、「経験がない」37.4%。



○ 職業別でみると公務員を除き、「経験がある」が多い。

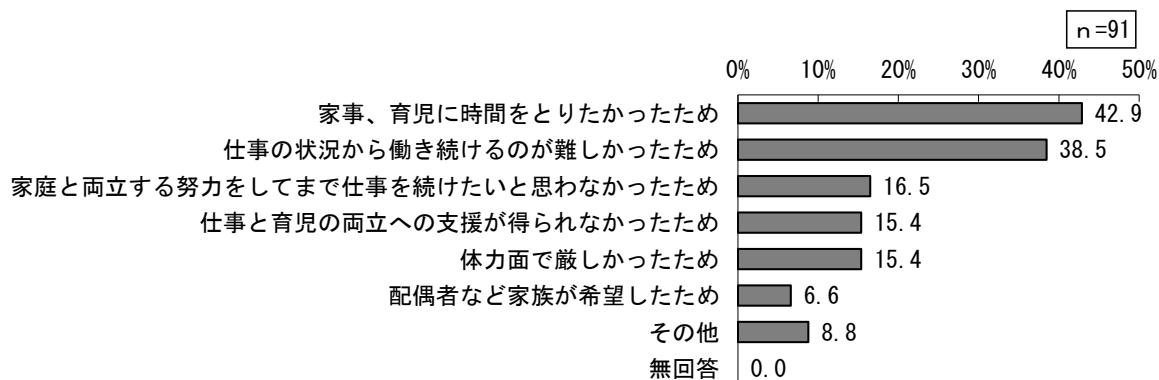
	合計	経験がある	経験がない	無回答
全体	155	91	58	6
	100.0	58.7	37.4	3.9
農業	2	2	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0
経営者、会社役員、自営業	15	8	7	0
	100.0	53.3	46.7	0.0
会社員・団体職員（正規雇用）	51	28	22	1
	100.0	54.9	43.1	2.0
派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託	38	27	10	1
	100.0	71.1	26.3	2.6
公務員	9	0	8	1
	100.0	0.0	88.9	11.1
学生	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0
無職	33	22	8	3
	100.0	66.7	24.2	9.1
1～7以外	6	3	3	0
	100.0	50.0	50.0	0.0

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位

付問ア 問31で「1（経験がある）」に○をつけた方のみお答えください。

①辞めた理由は何ですか。（主なもの2つまでに○）

- 仕事を辞めた理由は、「家事、育児に時間をとりたかったため」42.9%が最も多く、次いで「仕事の状況から働き続けるのが難しかったため」38.5%、「家庭と両立する努力をしてまで仕事を続けたいと思わなかったため」16.5%と続く。



- 職業別でみると、経営者、会社役員、自営業、会社員・団体職員（正規雇用）、派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託では、「仕事の状況から働き続けるのが難しかったため」が比較的多い。

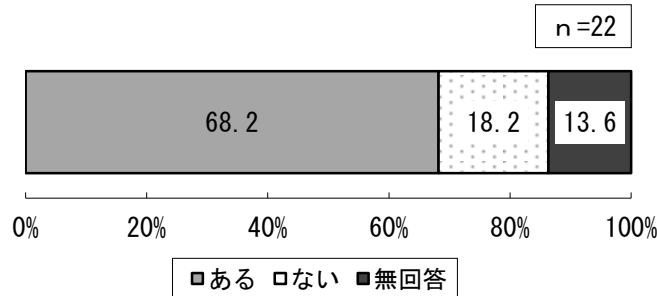
	合計	家事、育児に時間をとりたかったため	仕事と育児の両立への支援が得られなかったため	家庭と両立する努力をしてまで仕事を続けたいと思わなかったため	配偶者など家族が希望したため	体力面で厳しかったため	仕事の状況から働き続けるのが難しかったため
全体	91	39	14	15	6	14	35
	100.0	42.9	15.4	16.5	6.6	15.4	38.5
農業	2	2	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
経営者、会社役員、自営業	8	3	1	2	0	1	3
	100.0	37.5	12.5	25.0	0.0	12.5	37.5
会社員・団体職員（正規雇用）	28	9	5	4	3	4	10
	100.0	32.1	17.9	14.3	10.7	14.3	35.7
派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託	27	12	6	5	1	4	12
	100.0	44.4	22.2	18.5	3.7	14.8	44.4
公務員	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学生	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無職	22	12	1	3	2	5	9
	100.0	54.5	4.5	13.6	9.1	22.7	40.9
1～7以外	3	1	1	0	0	0	1
	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位（その他、無回答は非表示）

「仕事を辞めた経験がある」と答えた本人または配偶者の方で、現在も職に就いていない方のみお答えください。

②復職・再就職したい気持ちがありますか。（1つに○）

○ 復職・再就職したい気持ちがあるかは、「ある」68.2%、「ない」18.2%。

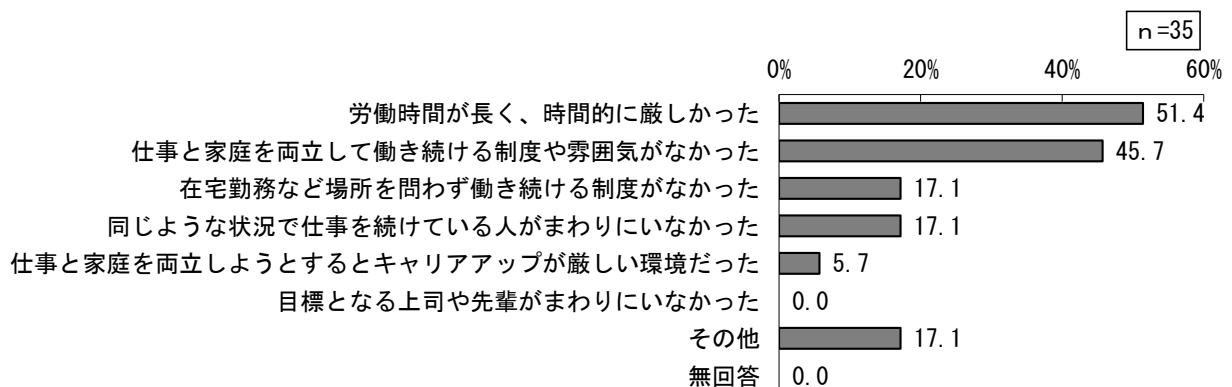


※回答者が少数のため、属性別集計は行わない。

付問イ 付問アで「6（仕事の状況から働き続けるのが難しかったため）」に○をつけた方のみお答えください。

働き続けるのが難しいと思った理由は何ですか。（主なもの2つまでに○）

○ 働き続けるのが難しいと思った理由は、「労働時間が長く、時間的に厳しかった」51.4%が最も多く、次いで「仕事と家庭を両立して働き続ける制度や雰囲気なかった」45.7%、「在宅勤務など場所を問わず働き続ける制度なかった」「同じような状況で仕事を続けている人がまわりにいなかった」ともに17.1%と続く。



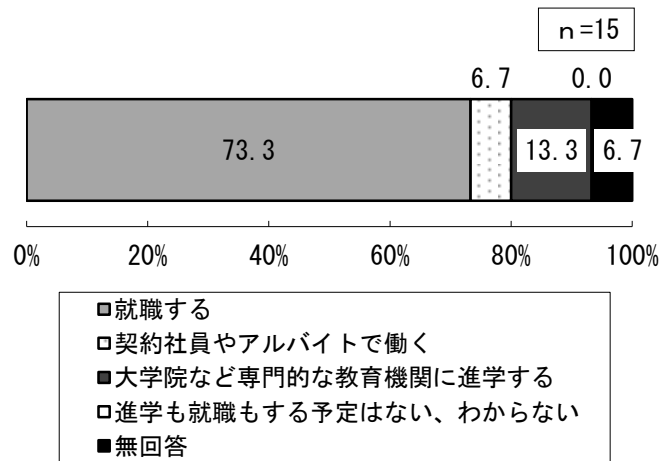
※回答者が少数のため、属性別集計は行わない。

6 卒業後の進路について（学生の方）

◆ 18歳～49歳かつ学生の方におうかがいします。

問32 卒業後はどのような進路を考えていますか。（最も考えに近いもの1つに○）

- 卒業後の進路は、「就職する」73.3%が最も多く、次いで「大学院など専門的な教育機関に進学する」13.3%、「契約社員やアルバイトで働く」6.7%と続く。

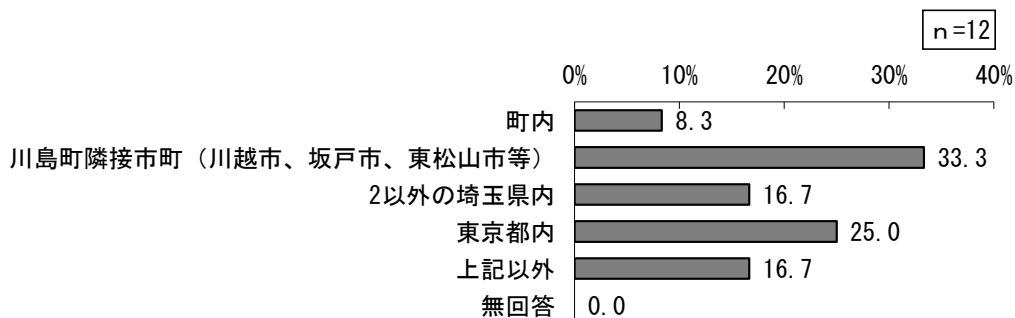


※回答者が少数のため、属性別集計は行わない。

付問ア 問32で「1～2（就職、契約社員やアルバイトで働く）」に○をつけた方のみお答えください。

就業の場所はどこを希望しますか。（1つに○）

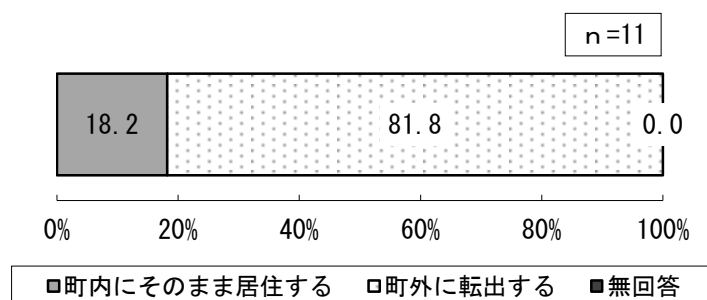
- 希望する就業の場所は、「川島町隣接市町」33.3%、「東京都内」25.0%が多い。



※回答者が少数のため、属性別集計は行わない。

付問イ 付問アで「2~5（町内以外）」に○をつけた方のみお答えください。
 町外を就業場所に選択した場合、居住場所としてどこを選択しますか。
 （1つに○）

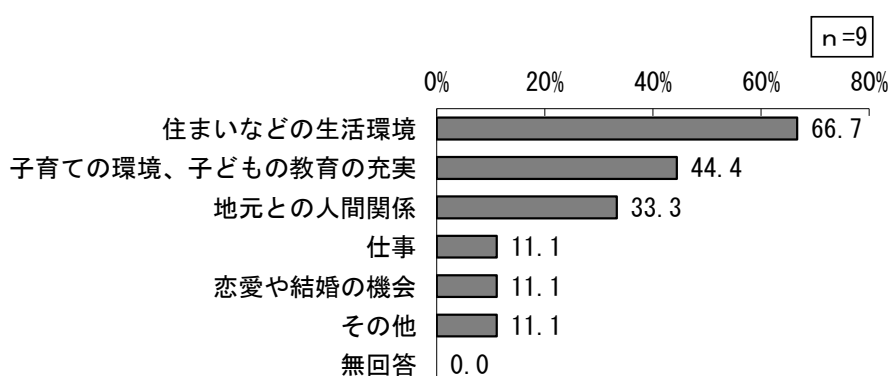
- 町外を就業場所に選択した場合、居住場所としてどこを選択するかは、「町外に転出する」81.8%、「町内にそのまま居住する」18.2%。



※回答者が少数のため、属性別集計は行わない。

付問ウ 付問イで「2 町外に転出する」に○をつけた方のみお答えください。
 将来、町内に帰って来るとしたら、最も重視することは何ですか。（主なもの
 2つまでに○）

- 将来、町内に帰って来るとしたら、最も重視することは、「住まいなどの生活環境」66.7%が最も多く、次いで「子育ての環境、子どもの教育の充実」44.4%、「地元との人間関係」33.3%と続く。



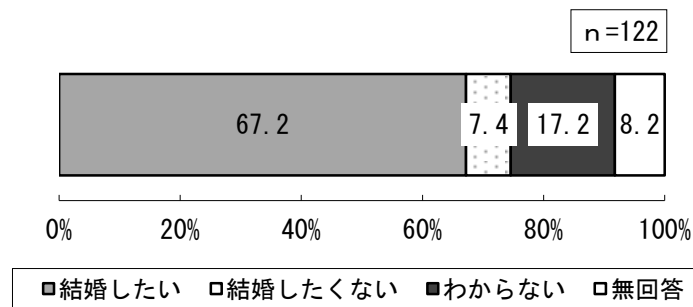
※回答者が少数のため、属性別集計は行わない。

7 結婚について（独身の方）

◆ 18歳～49歳かつ独身の方におうかがいします。

問33 あなたは、将来、結婚したいと考えていますか。（1つに○）

- 将来、結婚したいと考えているかは、「結婚したい」67.2%、「わからない」17.2%、「結婚したくない」7.4%と続く。



- 属性別でもみても全体結果と概ね同様の傾向である。

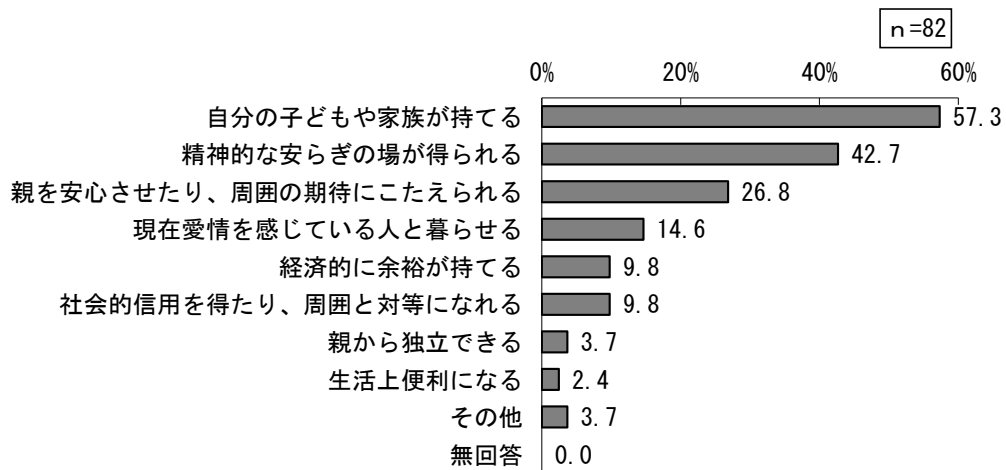
	合計	結婚したい	結婚したくない	わからない	無回答
全体	122	82	9	21	10
	100.0	67.2	7.4	17.2	8.2
男性	53	37	4	10	2
	100.0	69.8	7.5	18.9	3.8
女性	50	32	3	9	6
	100.0	64.0	6.0	18.0	12.0
18歳～19歳	9	7	0	1	1
	100.0	77.8	0.0	11.1	11.1
20歳～24歳	23	18	1	2	2
	100.0	78.3	4.3	8.7	8.7
25歳～29歳	20	17	0	3	0
	100.0	85.0	0.0	15.0	0.0
30歳～34歳	22	12	1	6	3
	100.0	54.5	4.5	27.3	13.6
35歳～39歳	14	11	2	1	0
	100.0	78.6	14.3	7.1	0.0
40歳～44歳	24	12	2	8	2
	100.0	50.0	8.3	33.3	8.3
45歳～49歳	10	5	3	0	2
	100.0	50.0	30.0	0.0	20.0

上段：人数、下段：割合、網掛けは各項目第1位

付問ア 問33で「1 結婚したい」に〇をつけた方のみお答えください。

①結婚したい主な理由は何ですか。（主なもの2つまでに〇）

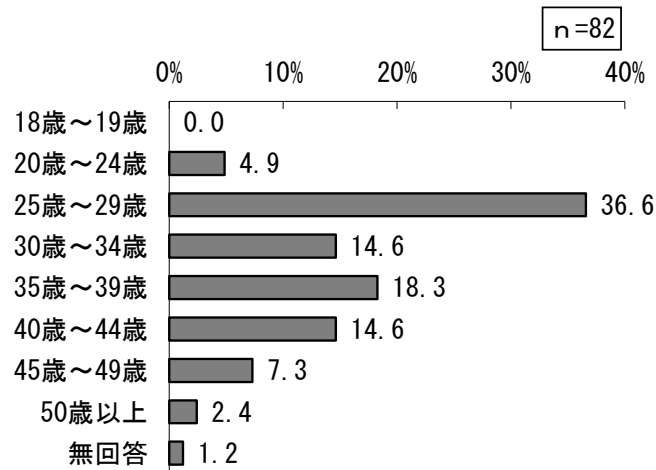
- 結婚したい主な理由は、「自分の子どもや家族が持てる」57.3%が最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」42.7%、「親を安心させたり、周囲の期待にこたえられる」26.8%と続く。



- 属性別でみると主な理由はそれぞれの属性で異なり、一定の傾向はみられない。

②何歳ぐらいで結婚したいと思いますか。(1つに○)

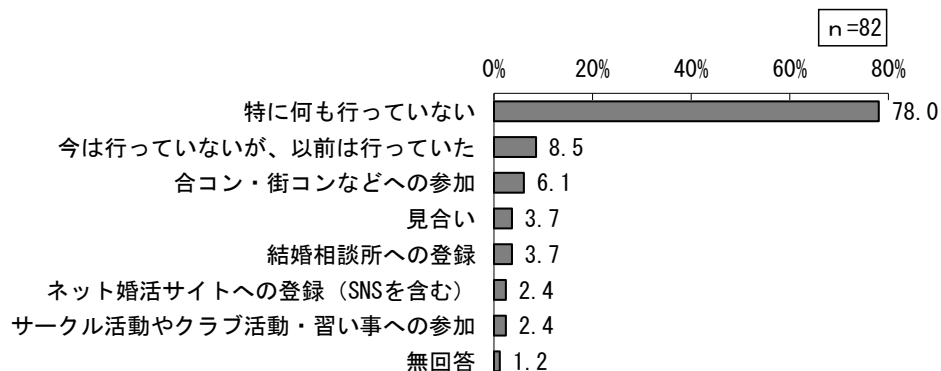
- 結婚したい年齢は、「25歳～29歳」36.6%が最も多く、次いで「35歳～39歳」18.3%、「30歳～34歳」「40歳～44歳」ともに14.6%と続く。



- 年齢別でみると、10歳代～20歳代後半では「25歳～29歳」が最も多い（30歳以降を除く）。

③あなたが結婚（出会い）に向けて行っていることは、次のうちどれですか。（主なもの2つまでに○）

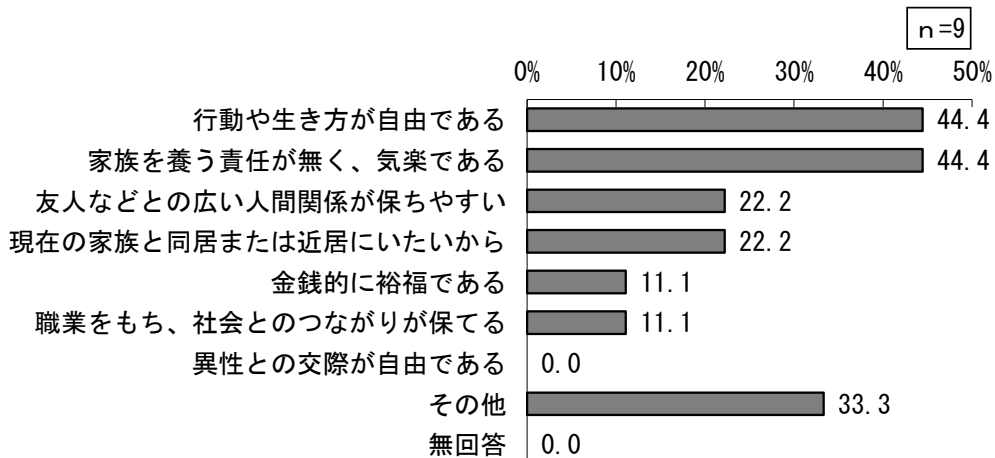
- 結婚（出会い）に向けて行っていることは、「特に何も行っていない」78.0%が最も多く、次いで「今は行っていないが、以前は行っていた」8.5%、「合コン・街コンなどへの参加」6.1%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

付問イ 問33で「2 結婚したくない」に○をつけた方のみお答えください。
結婚したくない主な理由は何ですか。（主なもの2つまでに○）

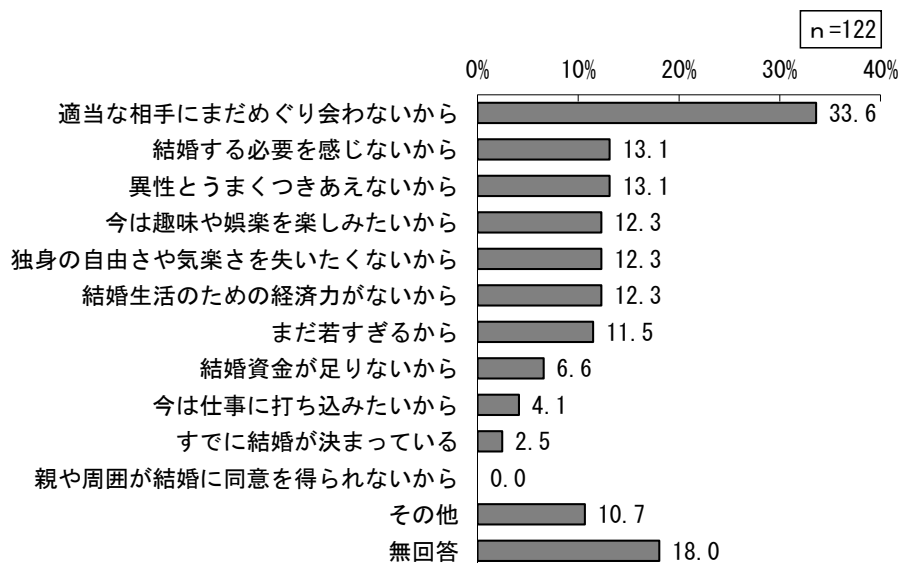
- 結婚したくない主な理由は、「行動や生き方が自由である」「家族を養う責任が無く、気楽である」ともに44.4%が多い。



※回答者が少数のため、属性別集計は行わない。

問34 あなたが現在、独身でいる主な理由は何ですか。（主なもの2つまでに○）

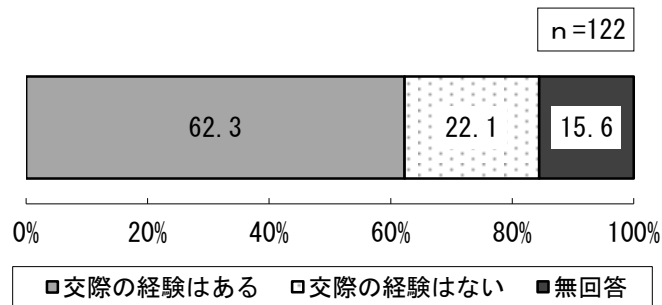
- 現在、独身でいる主な理由は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」33.6%が最も多く、次いで「結婚する必要を感じないから」「異性とうまくつきあえないから」ともに13.1%と続く。



- 属性別でみると主な理由はそれぞれの属性で異なり、一定の傾向はみられない。

問35 これまでに異性と交際した経験がありますか。(1つに○)

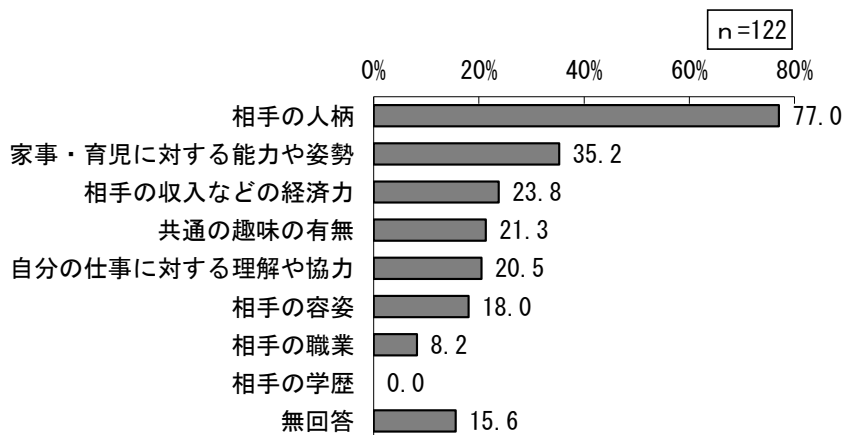
○ 異性と交際した経験は、「ある」62.3%、「ない」22.1%。



○ 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

問36 あなたが結婚相手を決めるとき、重視する点は何ですか。(主なもの3つまでに○)

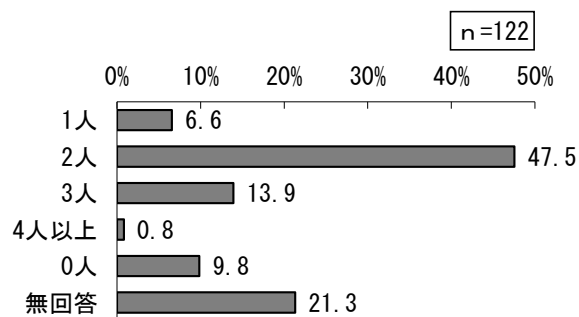
○ 結婚相手を決めるときに重視する点は、「相手の人柄」77.0%が最も多く、次いで「家事・育児に対する能力や姿勢」35.2%、「相手の収入などの経済力」23.8%と続く。



○ 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

問37 あなたは将来、子どもを何人くらい欲しいですか。(1つに○)

- 将来、欲しい子どもの人数は、「2人」47.5%が最も多く、次いで「3人」13.9%、「0人」9.8%と続く。



- 属性別でも全体結果と概ね同様の傾向である。

※問38 は自由意見欄のため、別冊に掲載。